福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書（2021 年）

このたびは、2013 年から毎年 1 月に実施しております「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」にご協力いただき、誠にありがとうございました。おかげ様で、第 9 回調査の報告書が完成しましたのでお送りいたします。

この報告書は、全体的な傾向を示すために、主要な項目を中心に調査結果を要約したものです。さらに詳細な分析は下記のホームページに掲載される予定の論文などをご覧ください。

昨年来のコロナ禍により、目に見えない放射能に遭遇し、外遊びや行動が制約されていた 10 年前を思い出すと、多くのお母さんが語っています。調査は今回をもって終了いたしますが、「記録なくして事実なし」を合言葉に、福島の記憶を未来へ伝えていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021 年 4 月 23 日

【お問い合わせ先】
福島子ども健康プロジェクト
〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立 101
中京大学 成元哲 研究室
電話＆FAX：0565-46-6516（直通）
e-mail：sungwonc@sass.chukyo-u.ac.jp
ホームページ：https://fukushima-child-health.jimdo.com/

＊本研究は科学研究費助成事業（19H00614）、トヨタ財団研究助成（D18-R-0325）の研究成果です。

☆ご覧いただくにあたっての注意点

①調査票は、現在も調査対象者からご送付いただいております。今回の報告書は、2021 年 3 月 31 日までに到着した調査票を対象としました。そのため、この報告書の結果は 678 票を集計したものです。

②各グラフの数値は、特にことわりがない限り、回答者全体（678 名）に対する割合です。ただし、小数点第 2 位以下は四捨五入しています。また、非常に小さい数値は表示していませんので、合計は必ずしも 100%にはなりません。

③本調査データを引用される場合は、事前に「福島子ども健康プロジェクト」までご連絡ください。

1 調査の回答状況

1. 第 9 回調査は 678 名の子どもの母親（保護者）が回答

表 1 地区ごとの回答状況

	第1回調査(2013年)			第2回調査(2014年)			第3回調査(2015年)			第4回調査(2016年)			第5回調査(2017年)		
地区	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
福島市	2137	883	41.3	883	526	59.5	525	379	72.1	410	328	79.8	327	285	87.2
桑折町	70	34	48.6	34	22	64.7	22	19	86.4	20	14	65.0	14	12	85.7
国見町	63	27	42.9	27	13	48.1	13	11	84.6	12	11	91.7	11	9	81.8
伊達市	404	175	43.3	175	118	67.4	118	89	74.6	94	75	78.7	79	66	83.5
郡山市	2644	1076	40.7	1076	629	58.5	629	476	75.7	514	390	75.7	390	345	88.5
二本松市	397	176	44.3	176	111	63.1	111	76	68.5	80	72	88.8	72	61	84.7
大玉村	81	44	54.3	44	27	61.4	27	21	77.8	22	20	90.9	20	15	75.0
本宮市	290	125	43.1	125	82	65.6	82	60	72.0	62	48	77.4	48	45	93.8
三春町	105	34	32.4	34	15	44.1	15	10	66.7	12	10	83.3	10	8	80.0
その他*		54		54	63		63	68		71	53	73.2	55	49	89.1
計	**6191**	**2611** **2628**	**42.2** **42.4**	**2628**	**1584** **1606**	**60.3** **61.1**	**1605**	**1205** **1209**	**75.2** **75.3**	**1297**	**1015** **1021**	**78.3** **78.7**	**1026**	**895** **912**	**87.2** **88.9**

	第6回調査(2018年)			第7回調査(2019年)			第8回調査(2020年)			第9回調査(2021年)		
地区	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
福島市	325	270	83.1	306	260	85.0	293	227	77.5	302	225	74.5
桑折町	14	12	85.7	14	10	71.4	13	10	76.9	12	8	66.7
国見町	9	7	77.8	8	7	87.5	8	7	87.5	8	7	87.5
伊達市	76	59	77.6	67	55	82.1	65	51	78.5	67	45	67.2
郡山市	385	303	78.7	352	313	88.9	335	274	81.8	348	251	72.1
二本松市	73	60	82.2	66	55	83.3	64	47	73.4	64	49	76.6
大玉村	20	16	80.0	17	16	94.1	17	14	82.4	18	13	72.2
本宮市	47	38	80.9	45	37	82.2	40	28	70.0	44	33	75.0
三春町	10	7	70.0	8	8	100.0	8	5	62.5	7	6	85.7
その他*	60	47	78.3	53	44	83.0	50	39	78.0	53	41	77.4
計	**1019**	**819** **832**	**80.4** **81.6**	**936**	**805** **814**	**86.0** **87.0**	**893**	**702** **725**	**78.6** **81.2**	**923**	**678**	**73.5**

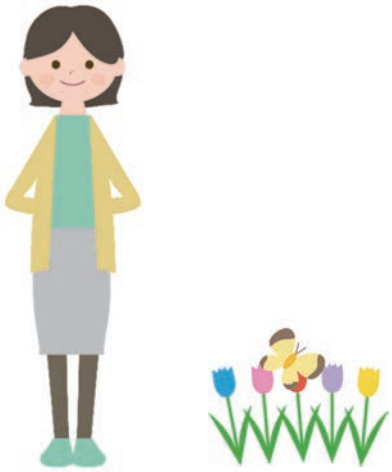
*A：調査対象者数、B：回答数、C：回答率（%）

*B,C の計の上段は各報告書作成時点の数、下段は 2021 年 3 月 31 日時点での数です。

*「その他」は調査対象地域の 9 市町村の住民基本台帳に 2012 年 10 月から 12 月までに記載されていた方で、それぞれの調査時点で「9 市町村外」に転居された方の人数です。

この調査は、福島県中通り9市町村（福島市、桑折町、国見町、伊達市、郡山市、二本松市、大玉村、本宮市、三春町）の2008年度出生児6191名（生年月日が2008年4月2日から2009年4月1日までのお子さん）のうち、2017年の第5回調査以降にご回答いただいた方（923名）を主な対象としています。今回の第9回調査は、2021年3月31日の時点で、678名の子どもの母親（保護者）からご回答いただきました。

*第2回調査（2014年）と第3回調査（2015年）において、「その他」の回答数が対象者数を上回っています。これは、それぞれ前回の調査票に記入された住所に送付しましたが、転居などで「9市町村外」に移動した場合、「その他」に分類されるためです。
*第4回調査の対象者数が第3回調査の回答数を上回っています。これは、第4回調査は2015年11月末時点での第3回調査回答者（1207名）に加えて、第1回調査協力者で第3回調査未回答者の中から再協力者（90名）を加えたためです。
*第5回調査は、第4回調査の回答者（1021名）に加えて、第4回調査には回答していないが、住所変更などのお便りをくださった方（5名）を含めて1026名を対象としています。
*第6回調査は、第4回調査の回答者（1021名）のうち、転居等で住所不明になり第5回調査票を届けられなかった方（2名）を除いた1019名を対象としています。
*第7回調査は、第5回調査の回答者（912名）に加えて、第5回調査には回答していないが、第6回調査に回答してくださった方（24名）を含めて936名を対象としています。
*第8回調査は、第6回調査の回答者（832名）に加えて、第6回調査には回答していないが、第7回調査に回答してくださった方（61名）を含めて893名を対象としています。
*第9回調査は、第5回調査以降、回答してくださった方923名を対象としています。



2 コロナ禍での生活

2.1 「コロナ禍の生活は原発事故後の生活と重なる」と答えた人が 8 割

コロナ禍の生活と原発事故後の生活が「重なる」、「ある程度重なる」と回答された方が 85.8%です。見えない放射能とウイルスへの不安、感染者や流行地域への差別など、コロナ禍の暮らしを原発事故後の生活と重ね合わせている方が多かったようです。

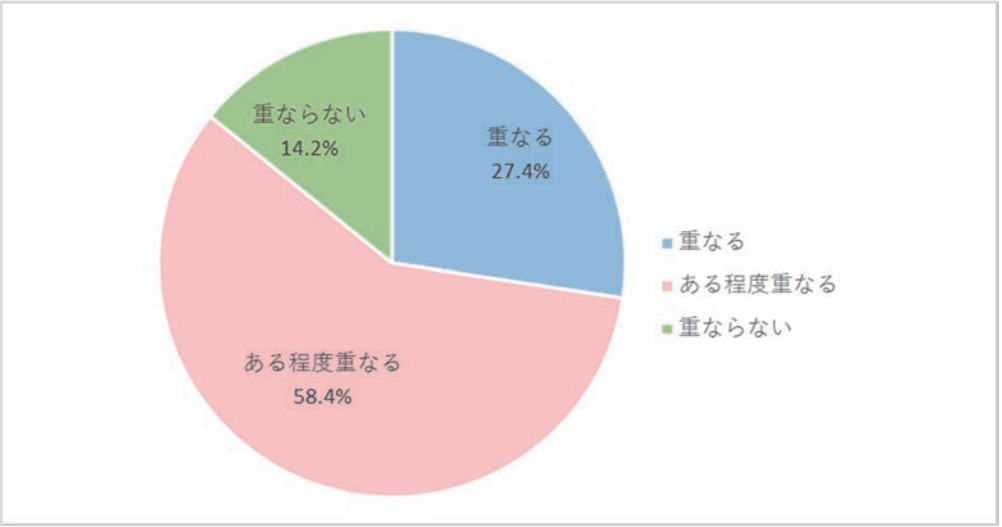


図　2-1-1　コロナ禍の生活は原発事故後の生活

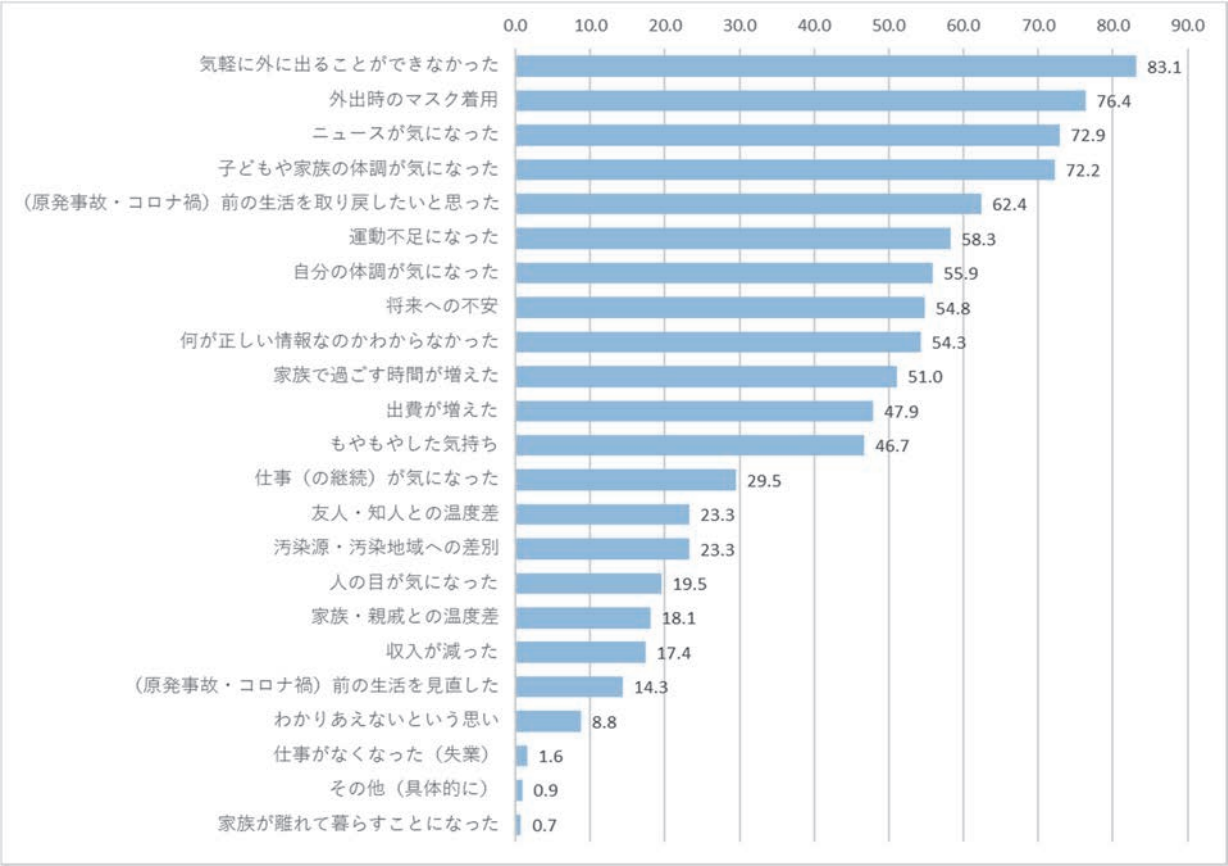


図　2-1-2　コロナ禍と原発事故、何が重なるか（重複回答）

2.2　コロナ禍での生活に関する声

分類	件数（%）
（１）行動制限	136（37.5）
①生活する上での制限（外出・マスク着用）	96（26.4）
②学校行事等の中止	14（3.9）
③運動不足	12（3.3）
④保養の中止	8（2.2）
⑤不自由を感じる	6（1.7）
（２）不安	129（35.5）
①将来不安（いつまで続くのか、先が見えない）	39（10.7）
②目に見えないものに対する恐怖・不安（放射線とコロナ）	36（9.9）
③健康不安（命の危険、健康に影響）	26（7.2）
④ストレスを感じる	16（4.4）
⑤子どもへの不安	12（3.3）
（３）差別（放射線とコロナに関する）	71（19.6）
①原発事故後の差別との比較	25（6.9）
②原発事故後の差別経験	18（5.0）
③コロナ感染者の多い地域に対して差別的な目で見てしまう	14（3.9）
④その他（コロナに感染することで差別される不安など）	14（3.9）
（４）情報	50（13.8）
①情報の正確性（何が正しいのか、正しい情報）	26（7.2）
②マスコミの報道（ニュースが気になる、フェイクニュース）	24（6.6）
（５）原発事故とは重ならない事	45（12.4）
①福島だけではないという想い	33（9.0）
②放射能は感染しないが、コロナは感染する	12（3.3）
（６）温度差	34（9.4）
①考え方・感じ方の違い	17（4.7）
②温度差	9（2.5）
③分断	8（2.2）
（７）その他	21（5.8）
①国の対応（国や自治体の対応）	11（3.0）
②経済的負担（出費が増えた）	10（2.8）

（１）行動制限（136 件）

①生活する上での制限（外出・マスク着用）96 件	生活するだけでの範囲を縮小したり、我慢をさせたりが多く、心の安定が計れているか親としてとても不安。
	より慎重に行動したり、他人の意見や人の目をいつも以上に気にする。
	気晴らしができず､ストレスが発散しにくい｡子どもたちに色々な体験、経験をさせてあげたいが限定されてしまう。
	原発事故後は、外での行動の制限。コロナ禍では、室内や人の集まる所への外出制限。
	原発事故の時は保養に行くことで気分転換ができたが、今は感染のリスクを考えるとどこにも出かけることができず、ストレスが解消されない状況。
②学校行事等の中止 14 件	部活やスポ少の試合や練習の自粛をしなければいけない。
	行事がなくなった。（運動会、修学旅行、部活の大会など）
	子ども達の学校行事が中止になってばかりで、残念でなりません。
③運動不足 12 件	子供も運動不足になっている気がし、友達との行き来が少なくなった。
	家で過ごす時間が前より増え、運動不良はあの時より感じる。
	ゲームやユーチューブなどのネットに夢中になってしまい運動不足になっている。
④保養の中止 8 件	保養が中止になり、交流の場がなくなった。
	原発事故後は保養として遠方に出かけて外遊びさせる等の工夫ができたが、コロナ禍ではどこに行っても心配がつきまとう。
⑤不自由を感じる 6 件	どちらにしても不自由さを感じる。
	生活圏での活動の自由度が低い。

（２）不安（129 件）

①将来不安（いつまで続くのか、先が見えない）39 件	無意識のうちにでもいつも何か不安がある、という点が似ているかなと思います。先が見えない不安、目に見えず何が正しい情報なのか分からない、という点も似ています。
	どちらもはっきりと収束しないのも、不安に感じる。
	心底前の生活（普通の生活）を取り戻したいと思う。それがいつになるのか不安に感じる。
②目に見えないものに対する恐怖・不安（放射線とコロナ）36 件	危険さは一緒。ただ放射能の原発事故のときは、移動しようと思えばどこかに逃げる事ができたが、コロナ禍ではどこにも逃げる事はできない。息苦しさを感じてしまう。
	原発から 10 年、今までいろいろな不安、最近は風化してきたがこんどはコロナ。二重の不安。完全にコロナがなくなるのはいつなのか？
	どちらも自分ひとりが気をつけようと思っても見えない力にはどう戦っていいか分からない。
③健康不安（命の危険、健康に影響）26 件	健康に影響を及ぼすかもしれないことへのおそれ。
	家族の健康について不安になる状況、もやもやした気持は重なる。
④ストレスを感じる 16 件	自由に外に行けなくなったり、買いたい物が買えなかったり、ストレスを感じる
	日常の生活リズムの崩れでストレスを感じる。
⑤子どもへの不安 12 件	未来ある子供が特に心配。
	子どもの体調管理や先のことへの不安が増えた。

（３）差別（放射線とコロナに関する）（71 件）

①原発事故後の差別との比較 25 件	放射能がうつるとかデマが流れて他県に福島ナンバーで出かけると嫌な思いをするということをたくさん聞いて、県外へ出ることをやめたり、安全を求めていろいろ出費をしたりしたことが思い出される。（中略）福島が嫌がられていたように今は感染の多い地域が嫌だなあと思う事があり、原発の時と逆になっている自分が少し嫌になる。
	原発事故の時は、福島が非難されたり差別の問題がありましたが、コロナ禍では逆で関東圏の方が福島に来ないでほしいという状態が重なる。
②原発事故後の差別経験 18 件	福島の人達は原発事故の時にいわれない差別を受け、悔しく悲しい思いをしたのに、コロナ患者へ同じような差別をしているのを見聞きし、悲しい気持ちになった。
	コロナは感染するもの、放射能は感染しないものなのに当時は福島というだけで差別やいじめ、バイキンあつかいをされたという話をよく聞いたのを思い出した。
③コロナ感染者の多い地域に対して差別的な目で見てしまう 14 件	「東京の人にこちらの地域に来てほしくない」と思った時に、ああこの感覚を当時の人は抱いていたんだなと、妙に納得しました。状況が変われば、自分もそちら側（避ける側）になるんだ、ということを痛感しました。当時は「（避ける人を）許せない」と思っていましたが、今となっては仕方がないとも思った。
④その他 （コロナに感染することで差別される不安など） 14 件	原発事故時は福島県、郡山など地域的差別だったので差別や風評被害はあまり感じることがありませんでしたが、コロナになった場合の差別への不安ははかり知れない恐怖を感じる。
	差別やいやがらせについては、どちらもダメだと思います。自分が感染したら、こわい（周囲の目や仕事への影響、差別）と思います。

（４）情報（50 件）

①情報の正確性（何が正しいのか、正しい情報） 26 件	メディアに対して敏感になり、何が正しい情報なのか分からないまま不安な生活をだらだら送っている。
	本当に正しい情報が何かわからない。
	同じ事をニュースでくりかえし、不安をあおり、そして正しい情報が分からなくなる。
②マスコミの報道（ニュースが気になる、フェイクニュース） 24 件	必要以上に不安をあおるものがある
	ニュースで取りあげられることは、感染者数の増加や、死についてばかりで不安をあおるような内容ばかり。もっと、こういう状況の中で感染拡大している理由やこうすると安心ということを伝えてほしい。
	インターネット上でのたたき合い
	ニュース（原発：マイクロシーベルト、コロナ：新規感染者数）
	コロナは 1 年以上たっても毎日トップニュース。皆が意識している。震災後、半年でだんだんと国の話題として大きくはとりあげられなくなっていた。

（５）原発事故とは重ならい事（45 件）

①福島だけではないという想い 33 件	原発事故は「福島」に注目があつまっていたけど、コロナは世界中の出来事なので、世界中の人が当事者になっている。原発事故後に感じた肩身の狭さみたいなものは全く感じない。
	原発事故の時は福島の人達だけの悩みで疎外感を感じていたが、コロナは社会全体の問題なので、自分ひとりで悩んでいる感じがしない。（子供が大きくなって自分の精神的な負担が減っている事も関係していると思う）

	コロナは誰でもかかる可能性があるが、原発事故被害は地域が限定される。
	福島県だから肩身の狭い思いをしなくても良い
	原発の時は「なんでここだけ、なんでこの地域が」という苦しみがあったが、コロナはそれに比べると精神的にはかなり楽。
②放射能は感染しないが、コロナは感染する 12 件	原発事故は目に見えない、いつ影響が出るか分からない、何におびえたらいいか分からない不安がメイン。コロナは感染すればすぐ身体に表れ、場合によっては死も待っているという、目前の恐怖。
	原発の時は、危険な場所（数値が高い場所）に近づかなければ、ある程度は防げる。それに、すぐに体調が悪くなり死ぬという事が原発ではなかった。
	原発は被曝者と接触してもうつらない。医療従事者のタイベックスーツは原発時そのもの！

（６）温度差（34 件）

①考え方・感じ方の違い 17 件	自分以外の人との考えの相違点、おびえる人もいれば、コロナ前とほぼ変わらない考えの人もいたり。
	人それぞれの考え方があり、一人一人行動も異なる。
	人により危機感が異なる。
②温度差 9 件	親族でも考え方についての温度差もある。
	対応に周囲との温度差を感じる事があった。
③分断 8 件	友人に会って相談、ご飯を一緒に食べる事も、相手の家族にまで迷惑をかけてしまうのかと、どこまでも注意せざるをえない状況。息苦しさを感じる。
	気軽に人にあえないのもつらい。
	放射能問題もコロナも人々を分断させるなあと思った。

（７）その他（21 件）

①国の対応（国や自治体の対応） 11 件	国やそれぞれの自治体での対応、補償の問題・本当に人命を一番に考えているのかという部分
	市や県、国の取り組みへの不満は当時を思い出すきっかけにもなった。
	政府や自治体は支援してくれない。
②経済的負担（出費が増えた） 10 件	収入の今後の見通しに対する不安が出たことも重なる。
	子供のおやつや自分の食事等、家で出来るゲーム等購入したので出費が増えた。
	原発事故から水にお金をかけ、コロナ禍ではマスク、消毒液等細かい出費が多い。

3 子どもの発達と健康

3.1 子どもの適応と精神的健康で初めて男子も全国平均を上回る

子どもの適応と精神的健康について、SDQ 日本語版を使って評価しました。SDQ の下位項目である「情緒」「行為」「多動・不注意」「仲間関係」の 4 領域の点数を合計したものを、「SDQ 総合得点」と言います。SDQ 総合得点は、その得点に応じて「正常」「境界」「臨床」の 3 つに分けられます。図 3-1 は、SDQ 総合得点の経年変化を男女別に示したものです。全国値は、全国の小学 4 年から 6 年生 8,584 名を対象とした Moriwaki らの調査結果（赤）*1 を示しています

女子の「正常」の割合は、Moriwaki らの全国調査に比べ、その割合が高い状態が以前より続いていましたが、男子はその割合が昨年度までは低い状態でした。今回の調査では、初めて男子も「正常」の割合が全国平均を上回りました。

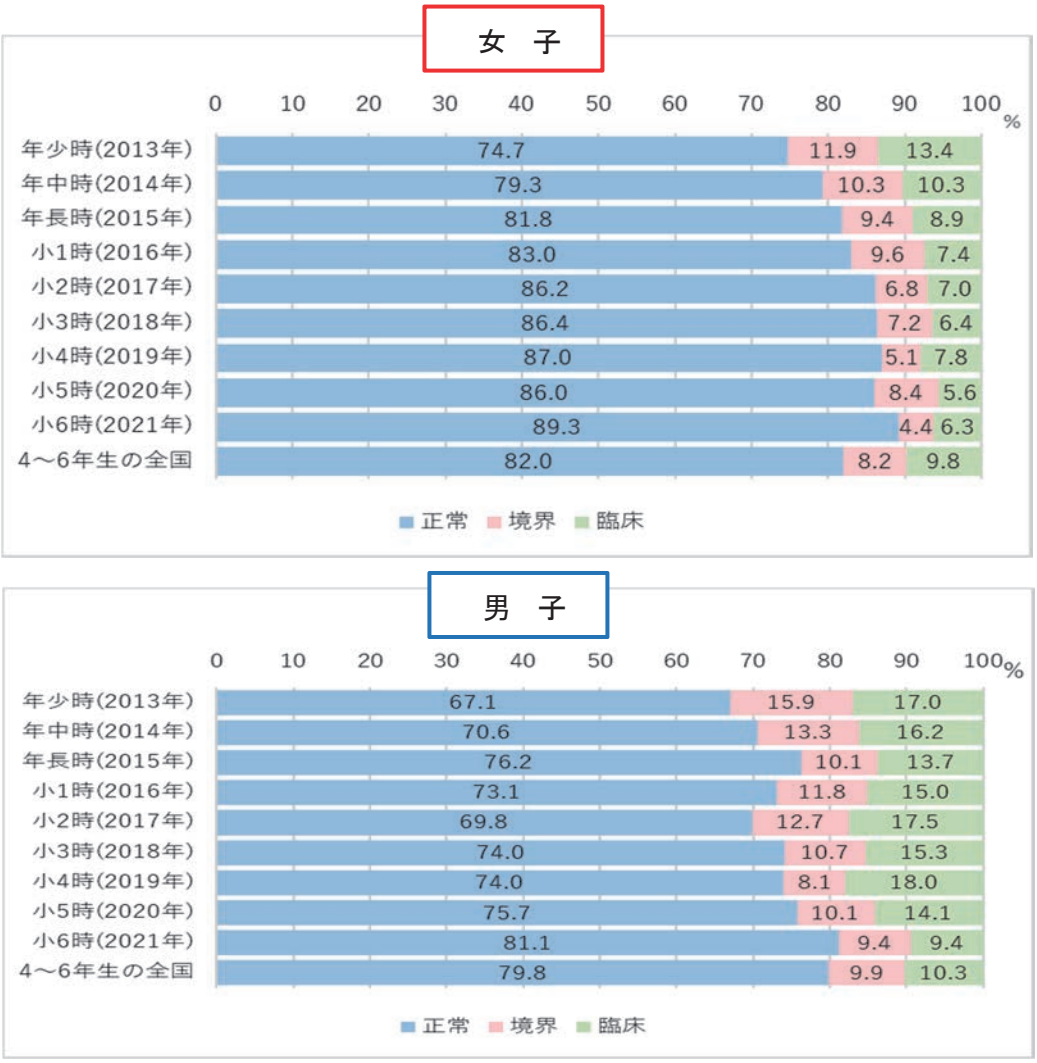


図 3-1 性別ごとの SDQ 総合得点

*1 Moriwaki A and Kamio Y, 2014, Normative data and psychometric properties of the strengths and difficulties questionnaire among Japanese school-aged children, Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health,21;8(1):1. doi: 10.1186/1753-2000-8-1.

3.2　子どもの健康状態は「良好」が続いている

「良い」と回答した人の割合は 2016 年以降 6 割後半で推移していましたが、今回の調査でその値が大きく伸び、8 割近くとなりました。「あまり良くない」と「良くない」の回答はほぼ変化がありませんので、「まあまあ良い」との回答が減少したことが原因と考えられます。

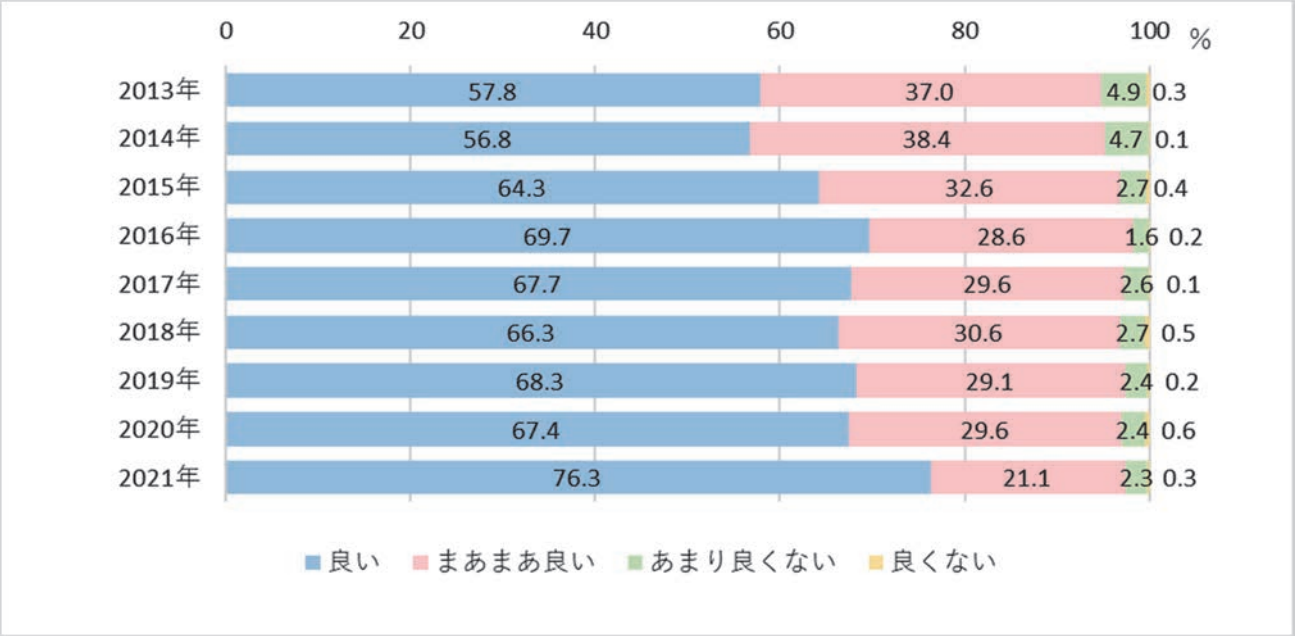
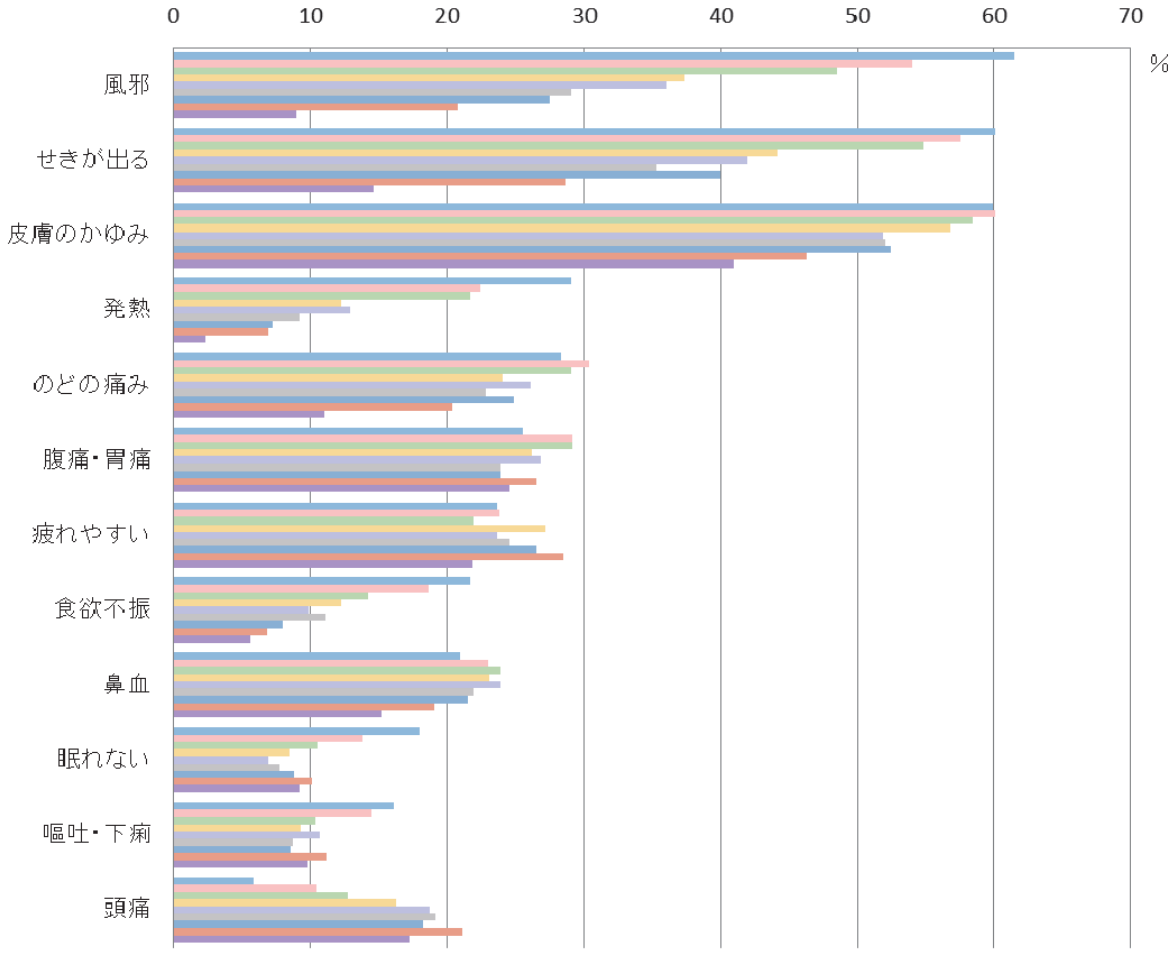


図　3-2 子どもの健康状態

3.3　子どもの症状のうち最も多いのは「皮膚のかゆみ」

これまでと同様に、もっとも多い症状は「皮膚のかゆみ」（41.0%)でした。続いて「腹痛・胃痛」（24.6%）「疲れやすい」（21.9%）の順でした。これらの症状は、質問項目が本調査と異なるため単純には比較できませんが、2013 年の「国民生活基礎調査」の 10-14 歳の有訴率においても上位を占めている症状でした。ただ、「国民生活基礎調査」での有訴率（人口千人当たり）は、「かゆみ（湿疹・水虫など）」22.0、「腹痛・胃痛」13.4、「体がだるい」17.1 でしたので、本調査の結果は全国に比べるとかなり有訴率が高いことになります。



	頭痛	嘔吐・下痢	眠れない	鼻血	食欲不振	疲れやすい	腹痛・胃痛	のどの痛み	発熱	皮膚のかゆみ	せきが出る	風邪
2013年	5.8	16.1	18.0	21.0	21.7	23.7	25.5	28.4	29.1	60.0	60.1	61.5
2014年	10.5	14.4	13.8	23.0	18.6	23.9	29.2	30.4	22.4	60.1	57.5	54.1
2015年	12.7	10.4	10.6	23.9	14.2	22.0	29.1	29.0	21.7	58.4	54.8	48.5
2016年	16.3	9.3	8.5	23.1	12.2	27.2	26.2	24.1	12.2	56.7	44.1	37.3
2017年	18.8	10.7	6.9	23.9	9.8	23.7	26.8	26.1	13.0	52.0	41.9	36.1
2018年	19.2	8.8	7.7	22.0	11.1	24.5	23.9	22.8	9.2	52.0	35.3	29.1
2019年	18.2	8.6	8.8	21.5	8.0	26.5	23.9	24.9	7.2	52.4	40.0	27.5
2020年	21.1	11.3	10.1	19.1	6.8	28.5	26.5	20.4	7.0	46.3	28.6	20.8
2021年	17.3	9.8	9.2	15.2	5.6	21.9	24.6	11.1	2.4	41.0	14.6	9.0

図　3-3　ここ半年間の子どもの症状　＊「よくある」＋「ときどきある」の割合

4 母親の心身の健康

4.1 6割以上の方に「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」との訴え

下の項目は、「災害後に特化した心の健康状態」を評価する指標（SQD）です。本来12項目ですが、ここでは上位6項目を示しています。

2013年以来、上位2症状であった「イライラ・怒りっぽい」「疲れやすく身体がだるい」が今回の調査では、それぞれ1割近くその値が減少していました。その他の症状については、それほど大きな変化は見られませんでした。

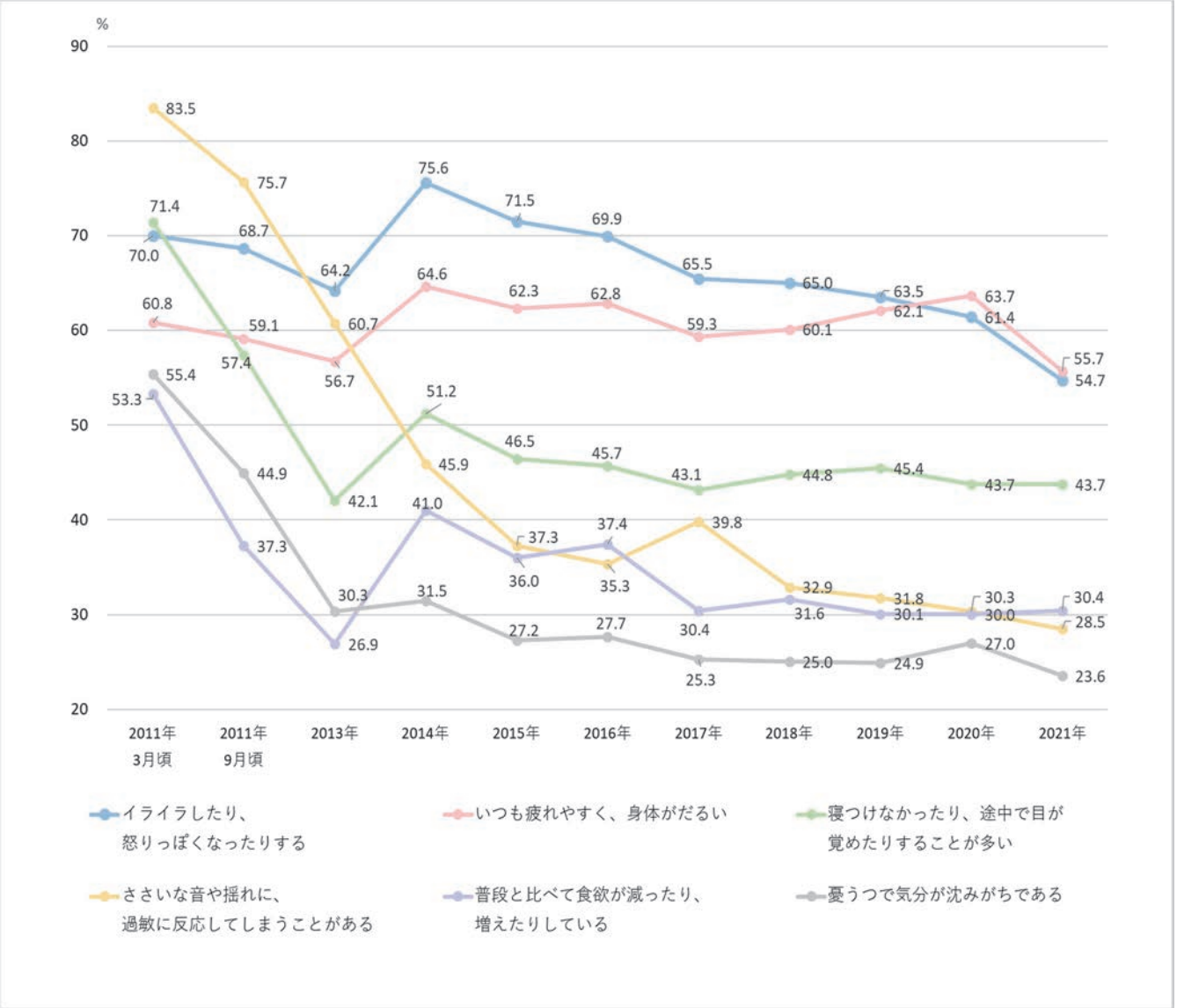
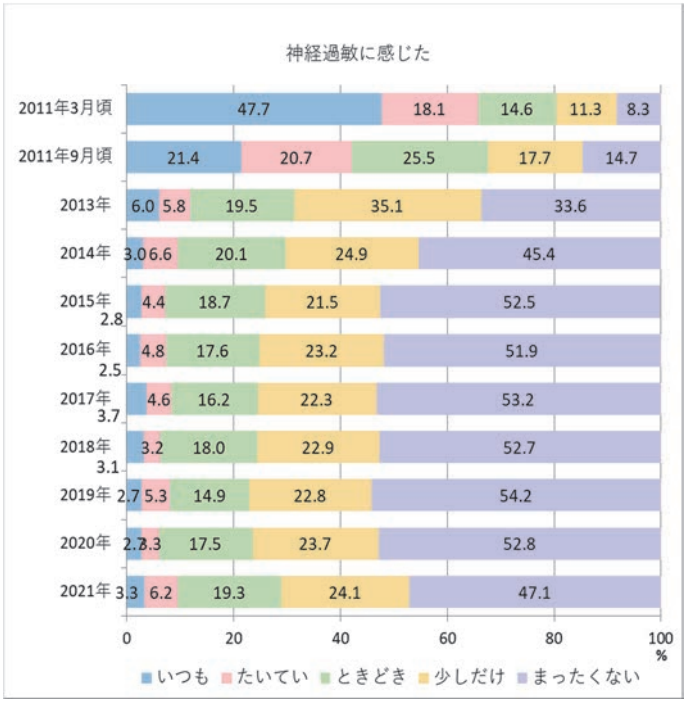


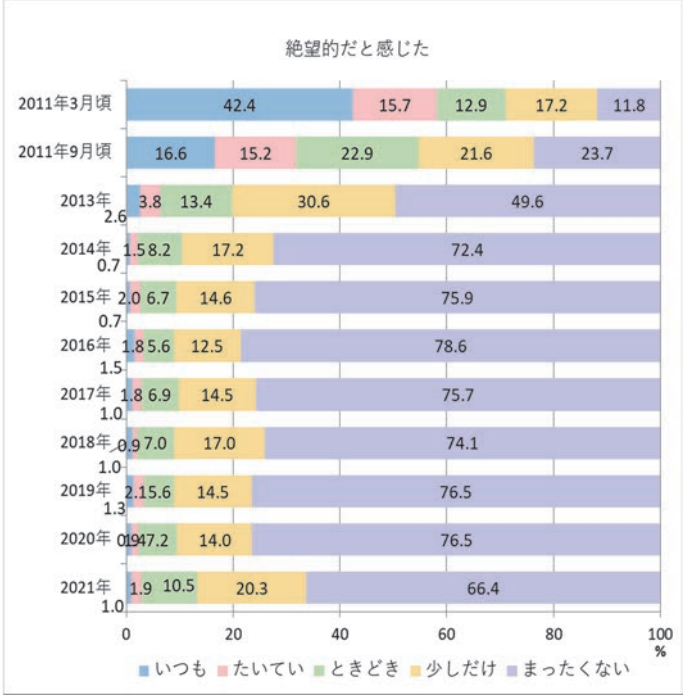
図 4-1 災害後の母親の心の健康状態

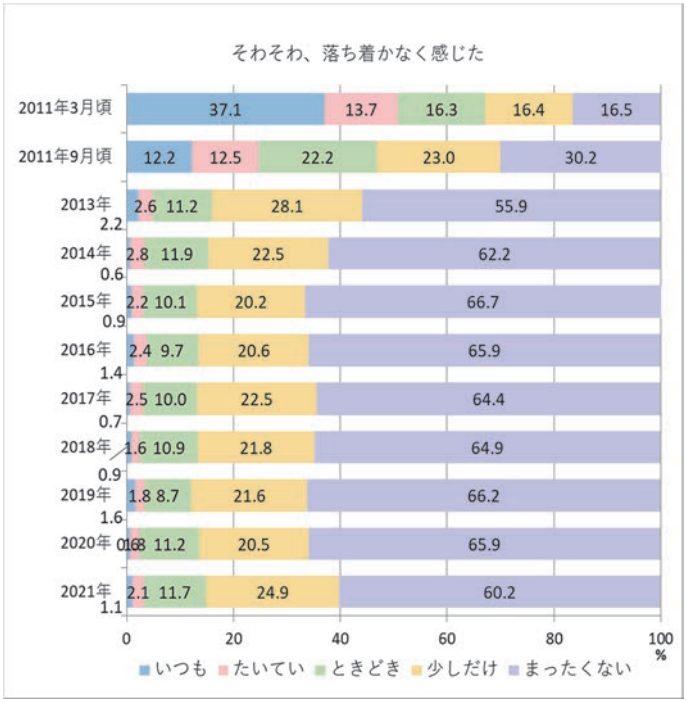
＊「よくある」＋「ときどきある」の割合

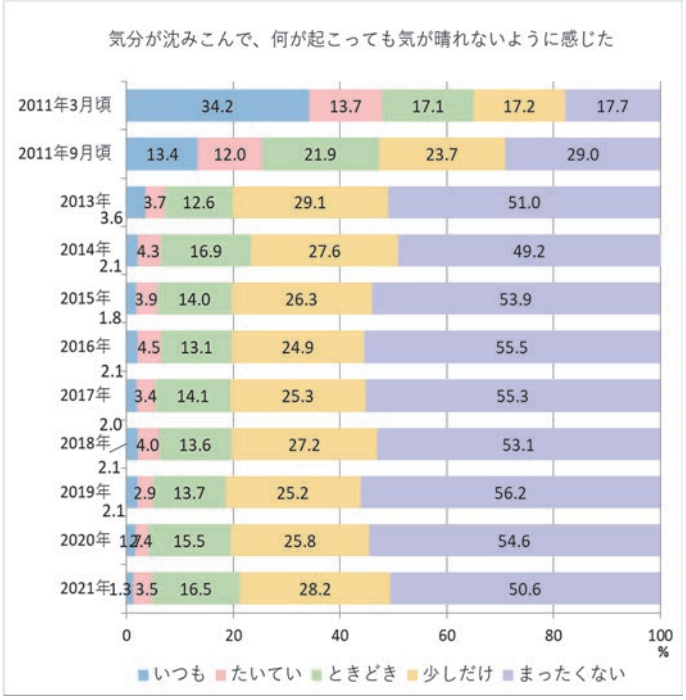
4.2　母親の心の状態にコロナ禍が影響か

下記 6 項目は、心の健康状態を調べる際に広く利用される指標（K6）です。原発事故直後から半年後にかけて母親の心の状態は不安定でしたが、その後、安定していました。ただ、今回の調査では症状が「まったくない」と回答する割合が 4 項目において減少しており、コロナ禍が影響していることも考えられます。









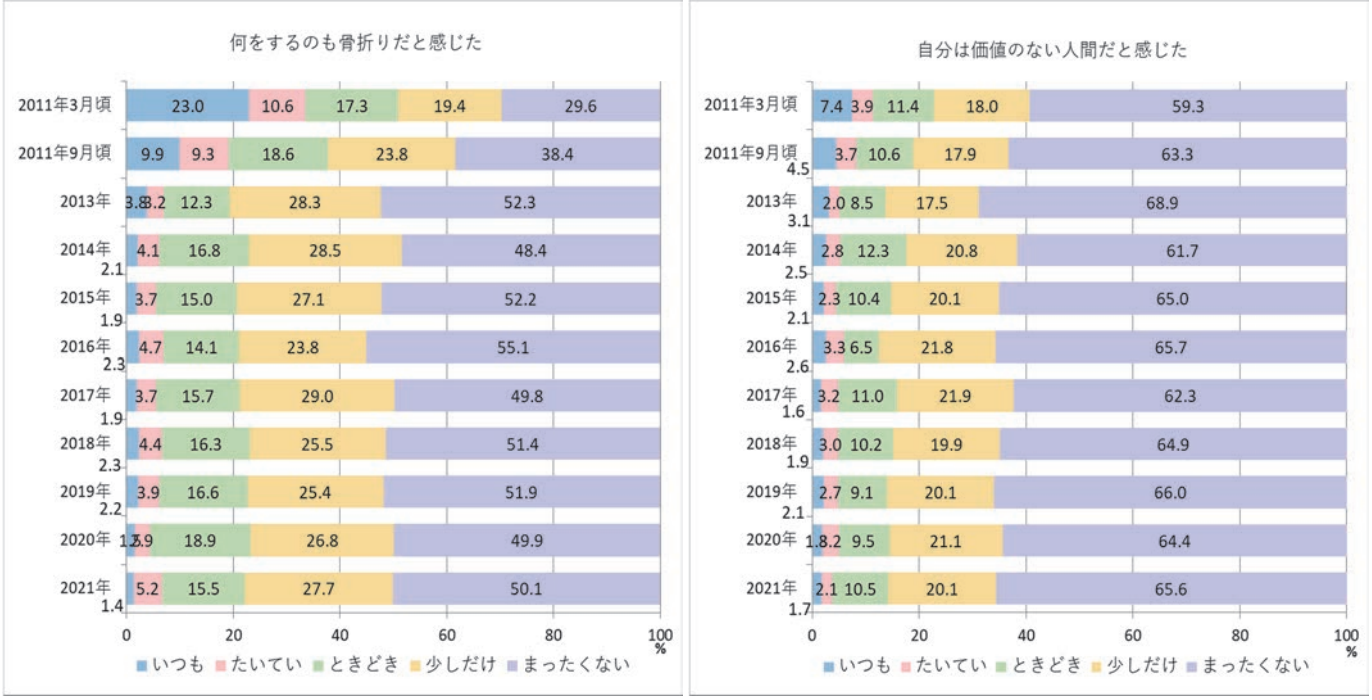


図　4-2　母親の心の健康状態

4.3　母親の健康状態もおおむね良好

母親の健康状態は「良い」と「まあまあ良い」を合計した割合が 2015 年以降継続して 8 割を超えており、おおむね良好であることがわかります。

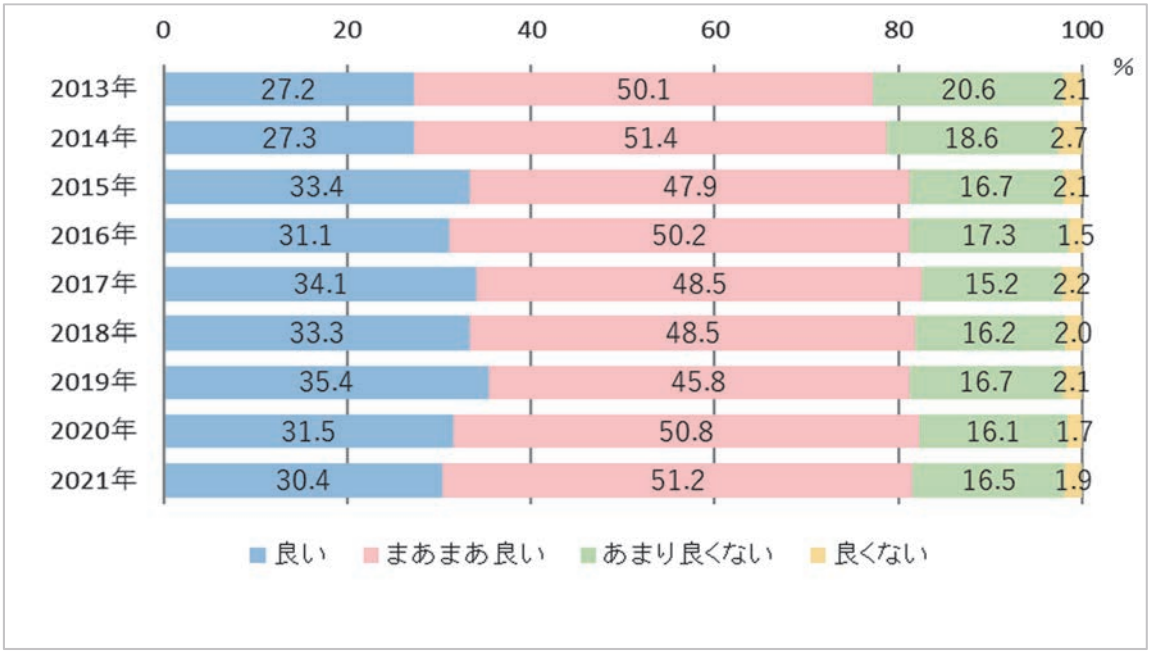
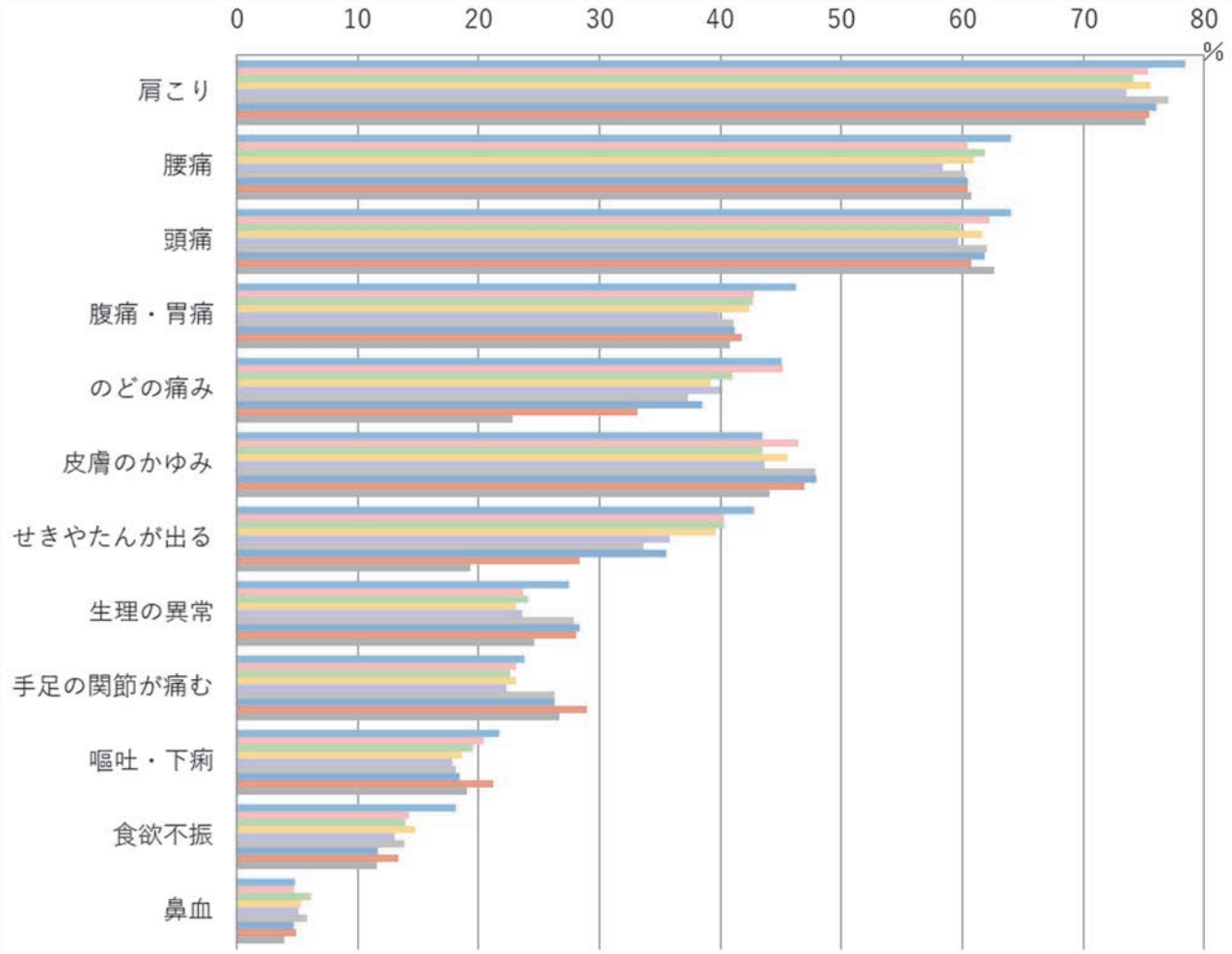


図　4-3　母親の健康状態

4.4　母親の症状の上位 3 位は昨年同様「肩こり」「頭痛」「腰痛」

これまでと同様に、母親の 8 割近くが「肩こり」を、6 割以上が「腰痛」「頭痛」を抱えていることがわかりました。この 3 つの症状は、2018 年の「国民生活基礎調査」における 40-49 歳の女性の有訴率でも上位の 3 症状でした。特に、「肩こり」と「腰痛」は全国的にも女性が特に苦痛を感じる症状のようです。



	鼻血	食欲不振	嘔吐・下痢	手足の関節が痛む	生理の異常	せきやたんが出る	皮膚のかゆみ	のどの痛み	腹痛・胃痛	頭痛	腰痛	肩こり
2013年	4.9	18.1	21.7	23.8	27.4	42.7	43.5	45.1	46.3	64.0	64.1	78.4
2014年	4.7	14.2	20.4	23.1	23.8	40.3	46.4	45.1	42.8	62.2	60.4	75.3
2015年	6.2	14.0	19.6	22.6	24.1	40.3	43.4	41.0	42.7	59.9	61.9	74.2
2016年	5.3	14.7	18.6	23.1	23.1	39.6	45.6	39.2	42.4	61.7	60.9	75.5
2017年	5.1	13.1	17.9	22.3	23.6	35.9	43.7	40.0	39.9	59.7	58.3	73.5
2018年	5.8	13.9	18.1	26.3	27.8	33.7	47.8	37.3	41.1	62.0	60.2	77.1
2019年	4.7	11.7	18.5	26.3	28.4	35.5	47.9	38.5	41.1	61.8	60.4	76.0
2020年	5.0	13.4	21.3	29.0	28.1	28.4	46.9	33.2	41.8	60.8	60.5	75.4
2021年	4.0	11.6	19.0	26.7	24.6	19.3	44.1	22.8	40.8	62.6	60.8	75.1

図　4-4　ここ半年間の母親の自覚症状

*「よくある」＋「ときどきある」の割合

5 原発事故後の生活変化

5.1 地域の放射能汚染の深刻度、8 割が「深刻ではない」と回答

「お住まいの地域の放射能汚染について、どの程度深刻だと考えているか」については、「深刻ではない」「あまり深刻ではない」を合計した割合が調査開始時点の 2013 年では 3 割以下でしたが、その値は時間の経過とともに増加し、事故から 10 年が経過した今回の調査で 8 割となりました。

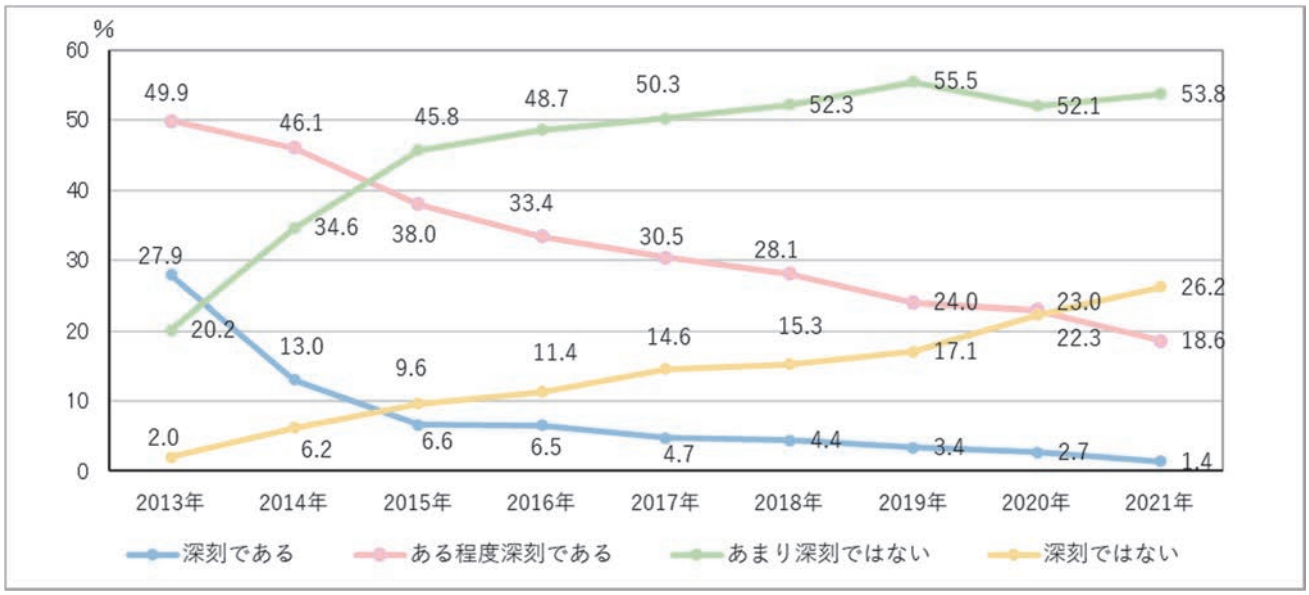


図 5-1 放射能汚染の深刻度

5.2　「補償不公平感」「情報不安」「いじめ・差別不安」が高止まり

原発事故後の生活変化には、これまで 4 つの傾向が確認できています。

1 つめは、事故から 10 年近く経過した時点で、6 割程度が「あてはまる」と回答し、高止まり傾向が続いているのが「補償をめぐる不公平感」です。

2 つめは、ゆるやかな減少傾向にある項目、「放射能の情報に関する不安」「いじめや差別への不安」「健康影響への不安」「経済的負担感」「保養への意欲」「子育てへの不安」です。

3 つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっているのが、「地元産の食材を使用しない」「洗濯物の外干しをしない」「避難願望」の 3 つの項目です。

4 つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目、「放射能への対処をめぐって配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」です。

こうした傾向は、今回の調査でも見受けられましたが、その割合は昨年の結果よりもそれぞれ減少していることがわかりました。

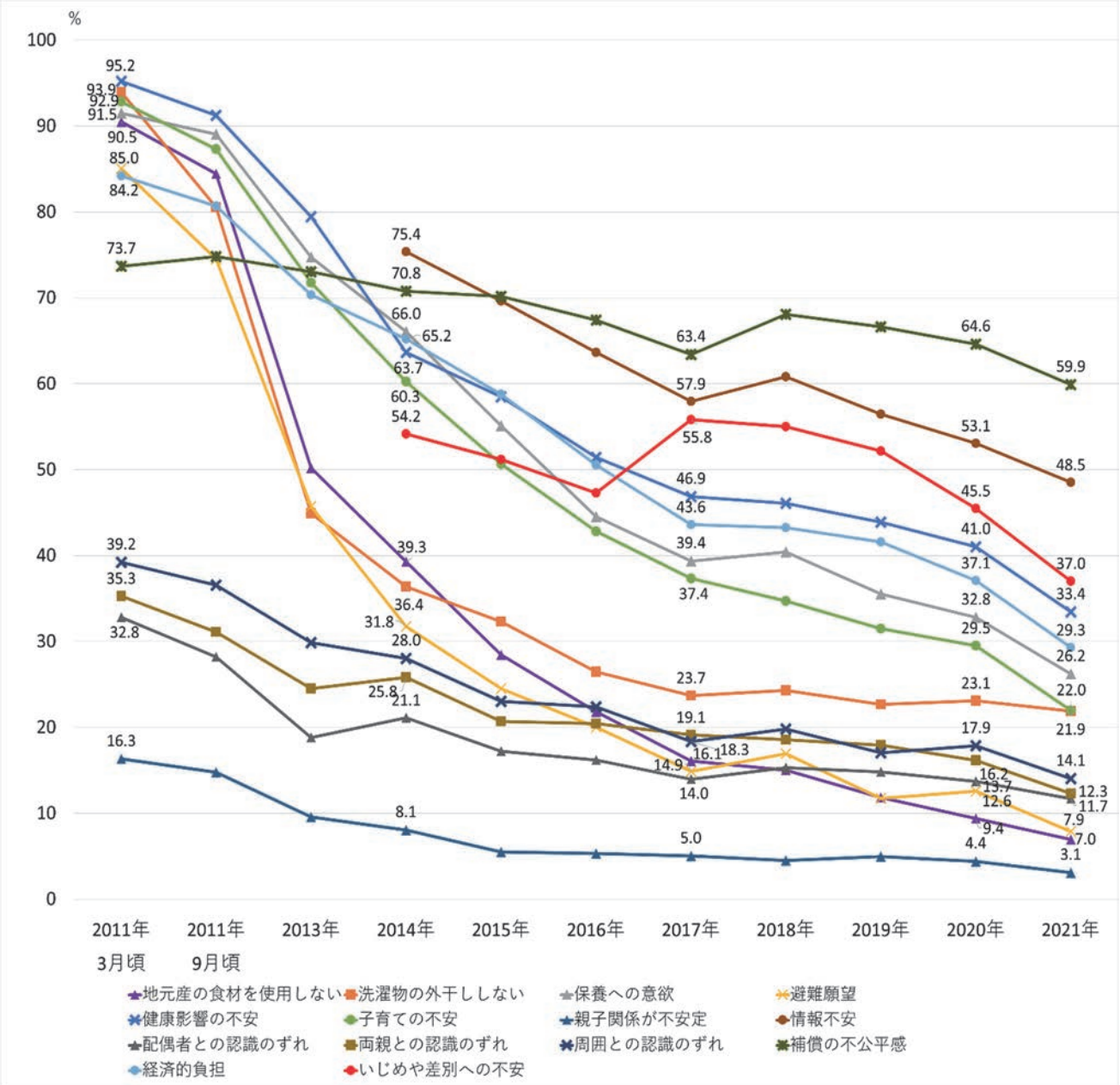


図　5-2　原発事故後の生活変化

＊「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の割合

5.3　4 割以上が「子どもの将来」の健康と心への影響を懸念

すべての項目において、年々、その割合が低下しています。特に、今回の調査では、子どもの将来の健康と心への影響が大きく減少していることがわかりました。

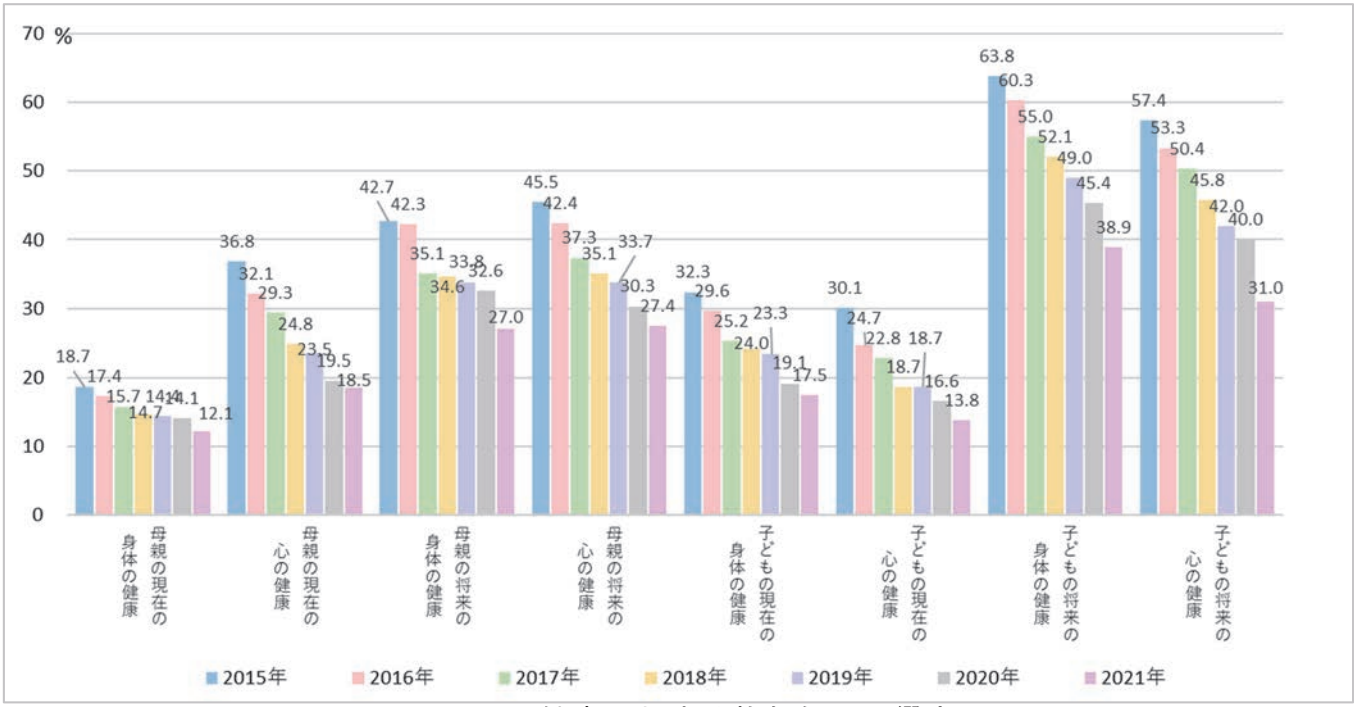


図　5-3　健康に対する放射能の影響度

*「影響がある」＋「少し影響がある」

5.4　市町村と福島県に対しては 6 割が「評価する」「ある程度評価する」

原発事故後の取り組みについては、「市町村」「福島県」は 6 割近い方に評価されています。「国」「東京電力」についての評価も徐々に高まっていることがわかります。

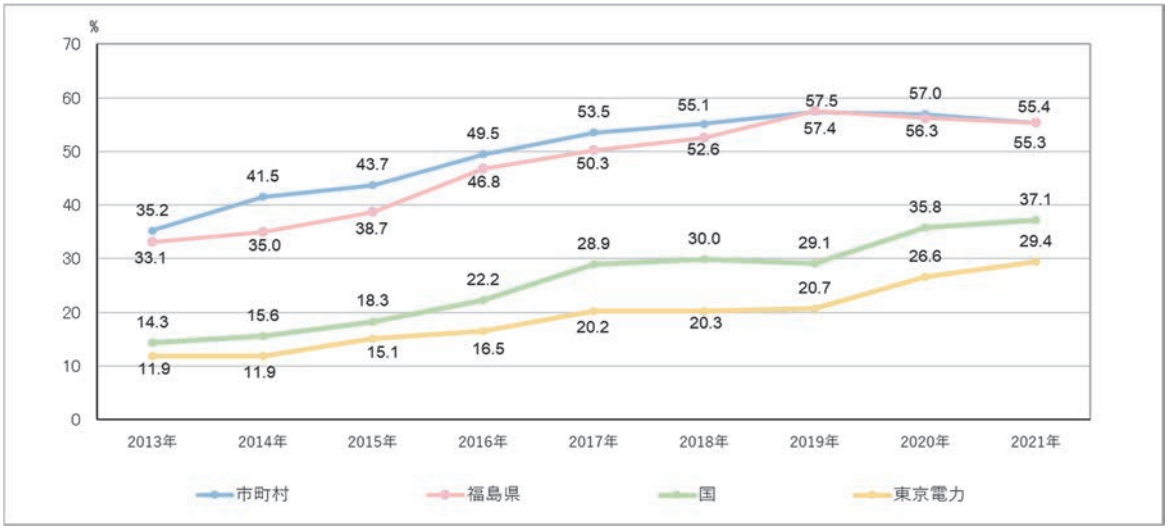


図　5-4　行政と東京電力への評価

* 事故後の取り組みを「評価する」＋「ある程度評価する」の割合

5.5　約 3 割の方が居住地域で原発事故や放射能について「話題にしにくい」

約 3 割の方が、原発事故や放射能について話題にしにくいと感じています（「感じる」＋「どちらかといえば感じる」の割合）。

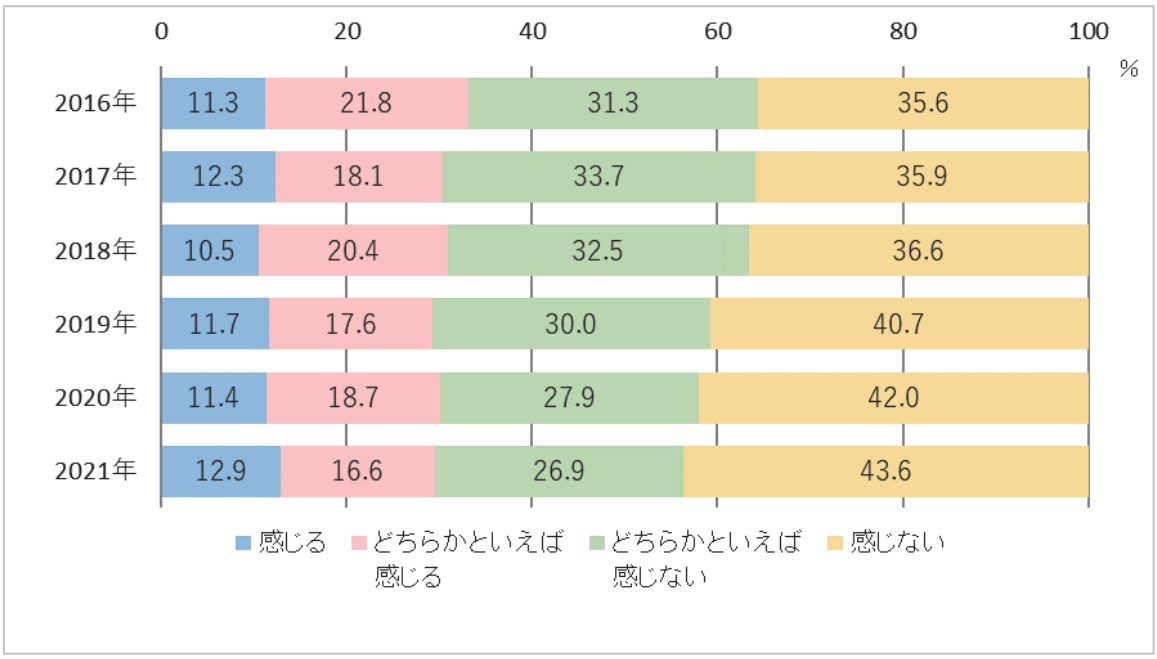


図　5-5　原発事故や放射能について話題にしにくい

5.6　居住地域で 6 割を超える方が原発事故の風化を「感じる」と回答している

今回の調査で、風化を「感じる」という方の割合が初めて 6 割を超えました。

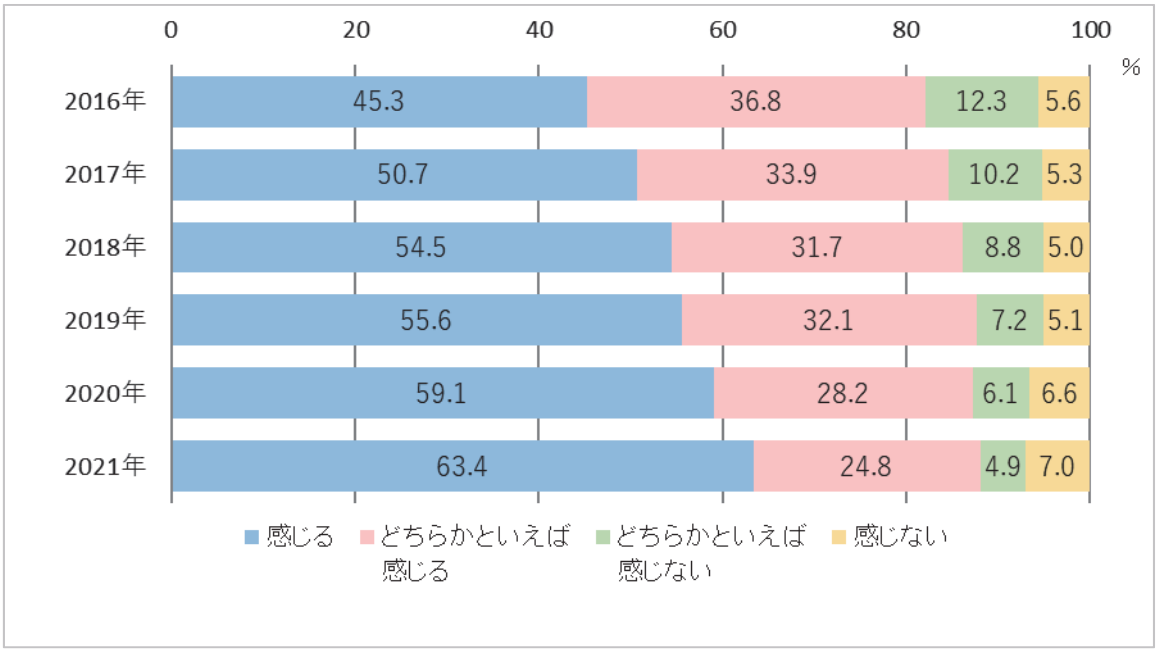


図　5-6　原発事故の風化

6 地域とのかかわりと居住意識

6.1 地元への愛着、誇り、人間関係の良さなど肯定的な回答が多い

「この地域が好きである」「近所同士の仲はうまくいっている」「自分のまちだと感じる」と回答した人の割合が 2017 年以降 8 割を超え、地元への愛着が事故以前の値とほぼ同等になってきていることがわかります。一方、「近所の人は互いに緊密な関係である」に関しては、一貫して 5 割前後を示しており、近所づきあいについて適度な距離を保って生活している様子がうかがえます。

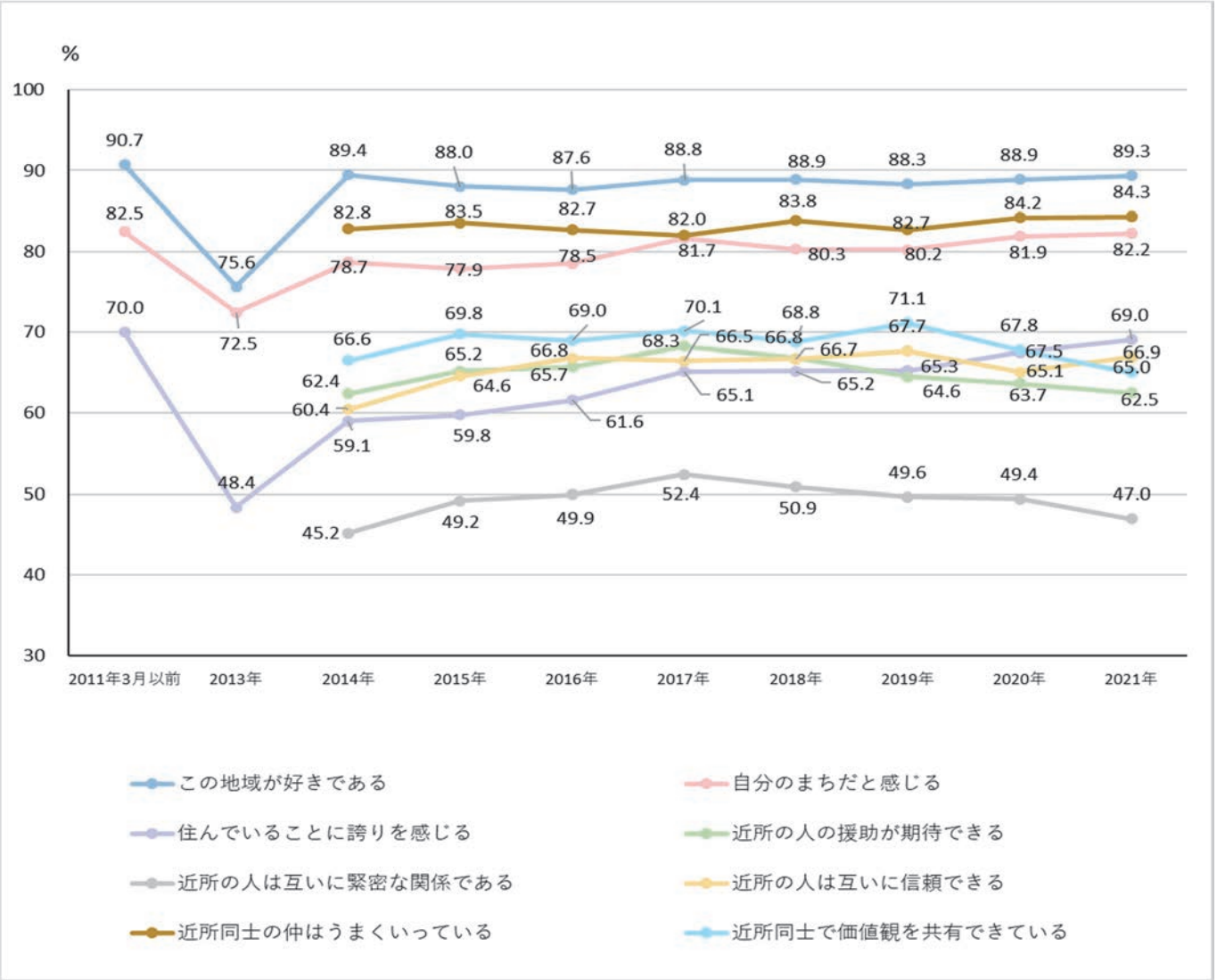


図 6-1 地域への愛着や人間関係の良さ

*「あてはまる」＋「どちらかといえばあてはまる」の割合

注）「この地域が好きである」「自分のまちだと感じる」「住んでいることを誇りに感じる」以外の 5 項目は、2014 年の調査から設問に追加しました。

6.2　居住意思は「住み続けたい」が圧倒的に多い

現在の地域での居住意思では、9 割の方が「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と回答しています。

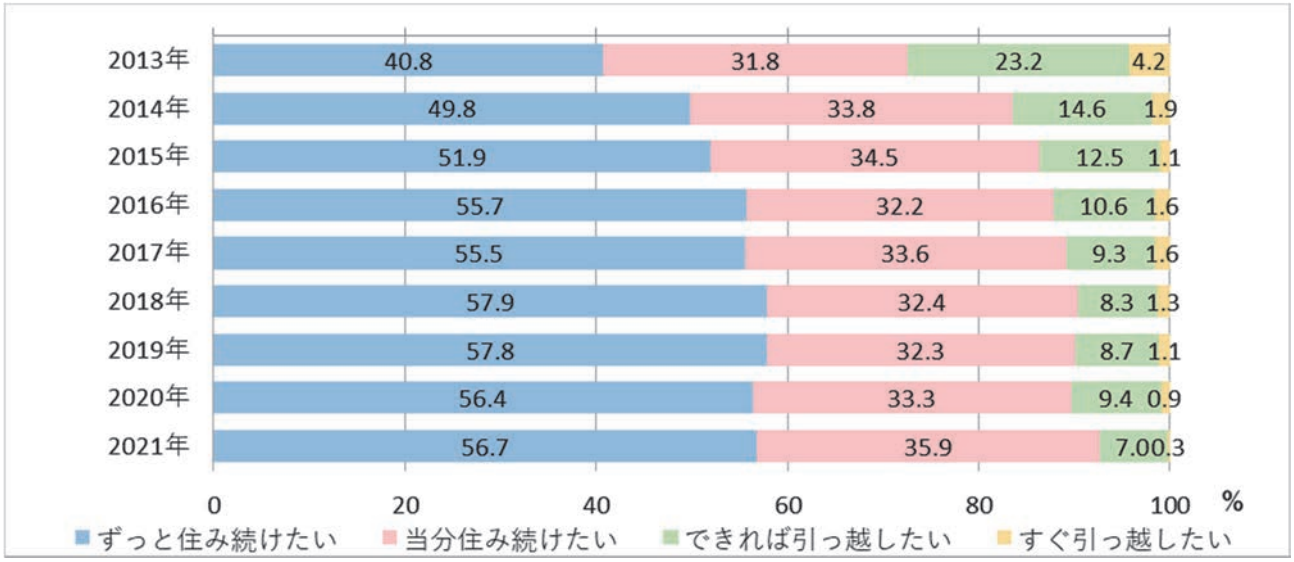


図　6-2　現在の地域での居住意思

7 回答者の特性

子どもとの続柄

	n=	母	父	祖母
2021 年調査	672	634(94.3)	36(5.4)	2(0.3)

（未記入 6）

母親の婚姻状況

	n=	既婚（有配偶者）	既婚（離・死別）	未婚
2021 年調査	632	582(92.1)	43(6.8)	7(1.1)

（未回答 2）

母親の年齢構成

	n=	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45 歳～
2021 年調査	632	25(4.0)	131(20.7)	247(39.1)	229(36.2)

（未回答 2）

8 自由回答欄の声

これまでの9年間の自由回答欄の記入数は以下の通りです。今年はお子さんが小学校を卒業し、中学生となる年であり、原発事故から10年とコロナ禍の影響が重なった年でもありました。こうした影響を受けて、自由記述の内容も大きく変化しました。数字は、福島子ども健康プロジェクトの事務局で複数の人が読んで数えた意見数です。ただし、分類項目の間には重複を含んでいます。

	回答総数（2021/3/31 時点）	自由回答記入数	記入率	文字数	一人当たり文字数
第1回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第2回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第3回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第4回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5
第5回調査	912	549	60.2%	100,690	183.4
第6回調査	832	451	54.2%	82,812	183.6
第7回調査	805	440	54.7%	84,872	192.9
第8回調査	725	377	52.7%	69,601	188.1
第9回調査	678	365	53.8%	75,340	206.4

自由回答分類	件数（%）
（1）ふり返り・現在の心境	281（76.9）
事故当時や事故後の生活について	78（21.4）
現在は前向きな気持ちでいる	35（9.6）
子どもたちに伝えていく	34（9.3）
不安はなくなった、精神的に安定した	25（6.8）
自身や家族の近況	24（6.6）
10年たっても何も変わっていない、復興が進んでいない	15（4.1）
復興を実感、復興を願う	11（3.0）
悲しい、苦しい、不安、気持ちが沈む	11（3.0）
子どもたちが元気で幸せな未来を願う	10（2.7）
その他（迷いや葛藤、防災への意識など）	38（10.4）
（2）コロナ	173（47.4）
ストレス・不安・心配	44（12.1）
行動制限	39（10.7）
事故後の生活と重なる、事故後の生活と比較して	28（7.7）
原発よりコロナが大変	28（7.7）
収束を願う	15（4.1）
差別・偏見	6（1.6）

その他（保養の中止、政治不信など）	13（3.6）
（３）風化	114（31.2）
自身が忘れている・話題にならなくなった	40（11.0）
コロナで事故が忘れられている	28（7.7）
風化させたくない・風化が心配	25（6.8）
その他（他地域の無関心、もう忘れてもいいのではなど）	21（5.8）
（４）子どもの健康影響	64（17.5）
子どもの将来の健康不安	53（14.5）
子どもの現在の健康不安	11（3.0）
（５）東電・行政への不満・意見、原発の是非	39（10.7）
（６）アンケート・調査への言及	33（9.0）
（７）賠償・補償	32（8.8）
（８）その他	62（17.0）

（１）ふり返り・現在の心境（281 件）

事故当時や事故後の生活について 78 件	震災から、まもなく 10 年です。普段は忙しくて考える余裕がありませんが、改めて振り返ると、感慨深いものがあります。あの時、二歳の誕生日間近だった娘は、もうすぐ小学校を卒業します。一昨日は、中学校の制服の採寸に行ってきました。（中略）ここまで歩んでこれるとは、あの頃は全く想像していませんでした。前を向いて一日一日を積み重ねた日々が、今日につながっていることを切に感じます。ストレスが多く変化に富んだ時代ですが、目の前の課題に集中し課題を一つ一つクリアしていくことで明日につながったように思います。
	私の居住地には津波は来ませんでしたし、地震の被害もそれほど大きくありませんでしたが、当時の映像を見ると、夜中パトカーや消防のサイレンが鳴り響き、しょっ中余震があったことを思い出します。夫は警察官で、震災の日から数日間、帰宅することなく原発がある近隣の地域で検視の仕事をしていました。夫が不在の中、まだ小さかった子供たちとの不安な日々を送ったことを、10 年経っても忘れられません。
	地震の時泣きわめき抱っこして避難した日は今すぐにでも思い出されるくらいこの前のことです。今、あの時のことがあってもみんなで乗り越えられると思うくらい子どもたちに支えられております。毎日大変で壁ばかりで心がしずむこともあります。今度は、コロナ禍と思いますが原発も終わったわけではない、複雑です。それでも子どもたちと日々を暮らしていかなくてはいけないと思っています。
	10 年前の震災の日、家の中はガラスが割れ、食器棚も冷蔵庫もたおれ、水道も何日も出ず、大変だったこと、子供のために避難するか、しないか悩み続けた日々、避難先で生活が安定するまで苦労したこと、すべてがこれからの人生の糧となってほしい。社会の基本である家族の絆を強め、これからも穏やかに生きていきたいと思っています。
	10 年前を思うと、福島市も内陸部でしたが大きな被害がありました。マンションタイプの賃貸 4 階に住んでいましたが、家の中はめちゃくちゃで、テーブルが上下さかさまにひっくり返っていて、部屋中、ガラスだらけになっていました。玄関のヒビ割れは外にまで貫通し、エントランス外側の階段が地盤沈下で 1 段多くなっていました。場所取りをしていて、立っている場所もない程、混雑している中、泣いてしまう娘と、いる場所がなく、自宅に戻り、部屋の一角に身を寄せていた事が、コミュニティの重要性を感じる経験となり、地元ではなかったのですが自宅

	を持つきっかけとなりました。
	3.11 から 5 日後に福島を離れ、点々と避難をした生活、本当に幼い子ども 2 人をつれては不安と苦悩でした。それは私には、忘れる事のない記憶です。でも、今の娘をみてその大変さもむくわれた気持ちがしています。年月たち、その時々でふり返ることもあると思います。その時は、真っすぐにまた伝えていきたいと思います。二度と起こってほしくない大震災。でも、どうなるかは分からない未来。今ある何気ない生活が、いかに幸せかを忘れないようにしていきたいです。
現在は前向きな気持ちでいる 35 件	コロナ禍の状況を落ち着いて動じることなく家族で切り抜けていけているのは、間違いなく震災の経験のおかげです。過ぎたことを不安に思っても仕方がなく、これから先に向けて今何をするべきか、ということを常に考えさせてくれています。
	生きる事、命に向き合う事、自分を支えてくれてる人が誰なのか、そばにいてくれる人は誰なのか、何が本当に必要な事なのか物なのか、はっきりと分かってきます。震災の時もそうでした。子供達にも本当に大切な事、生きるすばらしさを伝えていけると思います。震災の事もコロナも大きな事が起こって、でもそれをプラスに変えていける力があると信じて頑張っていこうと思っています。
	歴史の転換点で成長していく子が笑って幸せに過ごせるように全力で応援するのみです。私が楽しく生きる姿が一番身近なロールモデルになるので、私が人生を謳歌しようと考えています。
	子供は、当時のことは覚えていないと思います。コロナもそうですが、こんなことが現実におこるのだろうかと思うような体験でしたが、不安を感じながらも人は強く生きていけるものだと思いました。震災があったからこそ、自分の価値観は変わったのだと思います。今は、悪いことだけだとは思っていません。
子どもたちに伝えていく 34 件	良い意味でも悪い意味でも、10 年前の経験はしっかりと子どもたちに引き継いでいかなければならないと思っています。今年はコロナウイルスによる感染症や大雪災害など、あの時の地震や原発事故とはちがうけれど、考え方や対応方法（自分で守ることと、近所の人とのたすけあいの気持ち等）はかわらないと思いますので、子どもたちにしっかり教えていきたいです。
	この 10 年の節目で震災の映像を子どもたちと一緒に見ることが多くなりました。子どもたちが震災について考えることができるようになり、どのようなことが起こっていたのか、そしてどうなっていったのかを忘れてはいけないということを子どもたちにも伝えました。当時と現在とで、時とともに心境は大きく変わりました。心の片すみで原発のことを考えつつも普段の生活に戻っていることで以前に戻ったということだと思います。当時も現在も何が一番よいのかというのは分からないままですが。
不安はなくなった、精神的に安定した 25 件	ようやく日常的な放射線の恐怖から抜け出した。忘れられるようになってきたように感じる。実際は、これからの未来どうなるかは分からないが。普通に生きていてもガンにもなるし、他の病気にもなるし、事故でも死ぬもしれないので、放射線の影響のようにジワジワと姿を表すものは、普段のリスクと変わらないように思えてきた。だからといって、故郷福島の姿を変えてしまった原発を許すわけにはいかない。これからは、忘れないように、振り返ったり、まだ元には戻らない地域の応援ができたりしたらと思います。
	除染も終わり、以前とほぼ変わらぬ生活を送れています。家族がこのまま病気をせず、健康で幸せに暮らしていきたいです。
	10 年前は、現在の様なおだやかな暮らしは想像できませんでした。お陰様で放射能の影響なく毎日を過ごしています。ただ、現在でも自主避難をされ、福島を離れてしまった方も多くいて、地元に残る人、避難す

	る人を分断する悲しい事故だったなと思う。
自身や家族の近況 24 件	家族 4 人で病気もケガもなく、生活してこれているので、幸せだと思います。ゆとりのある家計とは言えませんが、仕事もあり、毎日笑顔で子供達と過ごしていれるので、幸せです。子どもも 4 月からは、中学生となります。毎日、元気に頑張ってほしいと思います。
何も変わっていない 復興が進んでいない 15 件	早く感じますが、まだまだ戻っていないコトばかりです。元々の形に戻るコトが出来ない事が、淋しく感じます。
	あっという間の 10 年だったように思う。子供の誕生、親の死、自分の心の乱れ等、色々あったが、原発の姿は何も変わっていないような気がする。今でも原発事故直後の何ともいいようがない不安や、地震に対しての恐怖心は忘れられない。
復興を実感 復興を願う 11 件	大変な事が起こったんだと今でも感じる増え続ける汚染水についても不安であるが、明るい未来があると信じている。
	今でも地元の復興に向けて頑張っていますので、少しずつでも前に進んでいける様応援していきたいと思います。
悲しい、苦しい、不安、気持ちが沈む 11 件	フクシマと表現されるのが悲しい。
	原発事故のせいでこんなに何年も苦しむとは思っていませんでした。東電に人生をメチャメチャにされた人が何人もいることを分からせてやりたいです。
子どもたちが元気で幸せな未来を願う 10 件	子どもたちの明るい未来を、もうこれ以上奪ってはいけないと思います。この先、子どもたちが少しでも幸せだ！と思える瞬間が、あることを願うばかりです。
	忘れられない震災も今となればどのように感じたらいいのか。ただただ、子供が無事に大人に育つ姿を近くでみれますように。
迷い・葛藤 3 件	毎年放射能の事を忘れようとしたい気持ちと子供の為に気をつけたほうが良いのではないかと迷いながら生活しています。
その他 （防災意識の高まり、今の生活が幸せなど） 38 件	まもなく 10 年目になりますが、新型コロナウイルス問題もあり、少し忘れかけていました。東日本大震災以外にも、様々な自然災害が発生し、自分の事として防災を意識するようになりました。
	今も家族の方が見つからないなど、心苦しい方もたくさんいる中で、普通の生活ができ、子供の成長を見られていることは、ありがたいなと感じます。大好きな福島で家族と共に過ごしていきたいと思います。

（２）コロナ（173 件）

ストレス・不安・心配 44 件	原発事故から、やっと心の平和がおとずれてきたと思ったら、今度はコロナで世界中が不安でいっぱいです。私はまだ健康ですが、母や子供がコロナによって健康ではいられなくなるのではないかという不安が常につきまといます。ある意味、原発の時より、今のほうが不安が大きいかもしれません。
	大きな災害後、つらい時期を耐えて 10 年。ようやくここまで来たかと思えば、新型ウイルス。生きるとは、耐える事なのか。絶望的とまでは行かないが、光が見えているとも思えず。
	子供の成長をみていると、原発事故を少しずつ忘れていくきがします。特にコロナ禍によって、忘れられていっている気がします。子供達と共に自由に動くことがとても苦痛で、行動範囲を制限され、ストレスがたまることがあります。（中略）原発のことも今現在のコロナのことも早く落ち着くといいなぁと思っております。
行動制限 行事の中止	我が家は震災でそれほど大きな被害を受けた訳ではないので、今回のコロナの影響の方が、実生活に響いていると感じます。学校が休校になったり、活動に規制がついて、見合わせる行動がとても増えました。

39 件	コロナ禍の中で、修学旅行も行けたもののいろんな制約がありかわいそうでした。4 月には、鼓笛パレードも中止でした。運動会も走るだけのかけっこ大会になってしまいました。思い出がない（少ない）ということに本人はとてもさみしい思いをしていると思います。子どもが子どもらしく生活できる日が早くくるといいなと思っています。
事故後の生活と重なる、事故後の生活と比較して 28 件	除染もおわり学校生活ももとどおりになってきた矢先のコロナ禍。原発事故よりしまりが悪い。どこにも逃げようがないから。
	小学校最後の 1 年の大切な行事が何もかもなくなりました。またしても「人災」によって、子ども達の自由が奪われ、我慢を強いる生活になりました。震災後と同じです。今回違うのは、日本中、世界中の人が、国が、「ちゃんと」大騒ぎして、何とかしないと！と思っていること。原発事故後、はたしてそうだったか。福島の人は、「震災のときと同じだ」と、ある意味とても冷静に毎日を過ごしていると感じます。“自分の命は自分で守る”これは 10 年前に学んだことであり、コロナ禍でもその意識は生きています。日本中の人が、コロナ禍での大変さや辛い経験から、原発事故後、福島県民が同じ感情で必死に毎日生きていたということに、思いをはせてくれたらと思います。
	子供の成長とともに、震災の記憶がよみがえる時と、忘れている時と、二極化しているように感じます。現在はコロナ禍の生活で、制限がある生活となった時、震災後の原発事故による影響があった時期と、とても似ているなあと感じました。原因は異なっても、制限のある暮らしは、普通の生活より少し窮屈で、息苦しさも感じます。
原発よりコロナが大変 28 件	放射能を気にしていたことも忘れてしまう程の、コロナ。目に見えぬものといつまでかかるのか、不安です。
	今は原発よりコロナ。誰も東日本大震災を忘れようとは思わないが、いつまでも被災者ではいられません。
収束を願う 15 件	震災の時も、今のコロナ時も、外で自由に出来ないことが子供たちにガマンをさせているのが気になります。自分たちの子供のころのように、早く安全で遊ぶ事、友達とマスクなしで話したり出来る時代が来てくれる事を願っています。
差別・偏見 6 件	何より、この 1 年ほどはコロナが流行していたので、被曝者として差別される事は減りましたが、それに変わり、コロナを患った方を差別する報道を見聞きするのが多くなり、それはまた当時を思い出し、気持ちの良いものではありませんでした。何が起きても、いつまでたっても、人を差別しようとする人々はやはりいて、何を経験しても変われない人々がいる事が虚しく感じた一年でした。
保養の中止 5 件	今年はほとんど保養に出ることができませんでした。コロナ禍においては、「保養なんて何考えてるの！」といわれるのではないかと口に出すのもためらわれ、実際主人の勤務先からは、本人、家族が県外に行った場合は数日間は欠勤して体調観察をしてほしいというお願いもありました。もちろん、コロナウイルスは怖いし、今は皆で協力して感染拡大を防ぐのが大切だと思います。ただ一方で、保養は大切じゃないの？（中略）という不安な気持ちもあります。保養は親である私にとっても大事な場です。

（３）風化（114 件）

自身が忘れている 話題にならなくなった 40 件	原発やら大震災、そんなこともあったなレベルで生活しております。福島県を離れているから、なおさらそのように思います。
	いつのまにか 10 年経ち、記憶からも少しずつ遠くなってきている。忘れてはいけないが、いずれ忘れてしまう時がくるのだなと。自分たちより大変な思いをされている方々は多くおられる。そういった方々のケア等をしっかりやっていただきたい。
	全てにおいて風化してきている（自分自身も）気がする。正直、考えることに面倒な気にさえなる。

コロナで事故が忘れられている 28 件	未だに原発の汚染水の問題は続いているのに、メディアでは、コロナ禍のニュース一色に染まってしまい東日本大震災や福島原発事故の意識が一気に薄れてしまった気がする。
	原発事故のことが自分の中でも風化しつつあるけれど、やはり今第一原子力発電所がどのくらい事故処理がすすんでいるのかと気になっている。（中略）今世の中はコロナウイルスのことでいっぱいいっぱいなので、東日本大震災、原発事故のことを振り返る余裕ないと感じている。
風化させたくない 風化が心配 25 件	コロナ、コロナで大震災、原発のことは自分自身でも忘れていました。この時期になると、子供たちが学校で先生から震災の話を聞いてきたり、ニュースなどで特集であつかわれるので、思いだして子供たちと一緒に話し合ったりします。年に 1 回でも家族で、震災・原発の話をして、風化させないようにしていきたいと思います。
	風化しつつあるので、後世に残すような取り組みを実施してほしいと考える。
その他 （他地域は無関心、もう忘れてもいいのではなど） 21 件	もう、忘れていいのではないでしょうか。コロナ、経済危機、将来の不安のほうが圧倒的に強いです。
	この 10 年、子どもが大きくなったのもあるし、もともと原発事故について認識のずれや気軽に話せる話題でもないので、風化していっていると感じていたところに、各地での豪雨被害やコロナといろんなことがありすぎて、世の中、原発事故だけ特別なこととして捉えていないのではないかと思うようにもなった。もちろん、二度と起きてはいけない事として後世へ伝えていかなくてはいけないという意味では風化させてはいけない出来事ですが、人生で一度あるかどうかの災害があちこちで起きていて、原発事故による福島県民へのイメージや、意識が差別という意味では子ども達が大人になる頃には薄れていくのではないかと健康面での不安は親として消えることはありませんが、差別という不安がなくなればいいなと思っています。

（４）子どもの健康影響（64 件）

子どもの将来の健康不安 53 件	事故のことはもう風化してしまっているように感じますが、これからも子供の成長とともに影響が出ないだろうか、という不安はなくならないものだと思います。国には、これからも検査や相談体制を万全にしていてほしいです。
	今後子供達に身体的な影響が出ない事を願っています。
	これから先、私達の体、子供の体にどう影響が出てくるのか不安です。
子供の現在の健康不安 11 件	子供が現在具合いが悪く学校を休んでいますが、風邪をひく度に原発の原因で、具合が悪いんじゃないかとか、少し体調が悪そうにしていると原発の原因で具合が悪いんじゃないかと不安になってしまう。
	息子が今までホールボディカウンターで検出なしだったのに今年になって検出されてしまった。ひんぱんに検査をしてほしい。

（５）東電・行政への不満・意見、原発の是非（39 件）

行政への不満 19 件	コロナのこともあり、日本の政治についても信頼できないと最近感じます。原発事故の汚染水の問題。廃炉までの長い道のり。国に任せても大丈夫かな？
	福島県のことも、またこの地球のことも、良くしていこうと本当に考えてくれているのかな。
東電への不満 8 件	東日本大震災による福島原発事故は人災だと考えている。決して風化はさせたくないし、東電には認めてほしい。
原発の是非 7 件	現実を受け止めて今を生きなければならないが、原発がない世の中は、絶対実現するべきだと思う。

（６）アンケート・調査への言及（33 件）

感謝 23 件	原発事故の風化が進む中、10 年もの間原発事故後の生活や健康について調査をしていただきありがとうございます。
気持ちが整理される 4 件	このアンケートに答える事で自分の気持ちに気づいたり整理できたりする部分があります。前向きなきもちになれるアドバイスシートなどもあると嬉しいです。
震災を思い出す 3 件	「10 年ひと昔」と言うように、震災から 10 年がたとうとしている今、原発事故も「昔に起きた事故」として皆の意識から薄れゆくものになっているように感じます。そう言う自分自身も原発事故に対して、恐怖や不安が薄れているように感じます。このアンケートが届くたびに、原発事故を思い出し、風化させてはいけないという気持ちになります。
その他 （調査継続を希望など） 10 件	調査も途中でやめないで続けていってください。歴史の一ページにきざむように。
	やっぱりこの調査は大変ですね。（ちょっと負担です）問 6 は、けっこう迷いました。むずかしかったです。

（７）賠償・補償（32 件）

不公平感 10 件	原発から近い所に住んでいた方への補償は十分あると思われますが、この辺ではほとんどなかったに等しいです。同じ福島で、同じくらいのくるしみを味わったのに不公平な気持ちは未だに変わりません。近所にひっこして来た（原発近くにお住まいだった方）は、豪邸で高級車を何台も持ち、とてもぜいたくしている気がします。
	東電の補償をもらっている人との格差が広がる一方です。もう、補償をやめて平等にしてほしいです。どっかの山に村（市）でも作って住んでほしい。復興と風化の言葉が嫌いで、ニュースで見るだけで気分が悪い。
もう終わりにしていいのでは 7 件	避難している方や漁業関係者などの方への支援は引き続きお願いをしたいが、それ以外の方はもう支援等は必要ないのでは？とも思います。事故による健康被害が出た時のみ保障していただければそれでいいと思います。
	今まだ震災被災者は医療費０円です。はっきりいって 10 年です。すでに新しい生活をしており、しっかりと仕事などもできるのではないかと思います。東電や国などにいつまでお金をもらい続けるのか。震災だけでなく、今はコロナのせいでみんな収入や生活がふあんになっているのに。いいかげん、被災者への補償を切って、コロナ対策にあてるべきではないかと感じます。
ほかに回すべき 5 件	岩手や宮城の被災者は自力で頑張っているのを見ると、どうしても比べてしまいます。避難民は何をやっているのだろうと。お金の出所はちがうのかもしれませんが、日本全国で自然災害で被災した方、コロナで日々の生活も困難な方、最前線でコロナと戦っている医療従事者に、そのお金を回せないものかと思ってしまいます。避難民ばかりが、優遇されているあいだは、私は彼らを『避難民』と呼びます。
	皆がもっと前向きな考えになってほしい。「住んでいた場所を元に戻して、自分たちも帰りたい」と言っている方の考えも分かるが、元には戻らない。どうやっても戻らない。だから、補償だの、金だのではなく未来に残していくため、その土地のためにお金を使ってもらいたい。（原発についてのこのような意見は、土地愛がある方には話せないのが、まだ 10 年かな）

（８）その他（62 件）

将来の差別や偏見への不安 16 件	福島県で生きるのには不便ではありませんが、子供たちが将来県外に出た時に少しの不安があるのも確かです。風評被害がなくなる世の中に早くなってほしいと願うばかりです。
	子どももいよいよこの春中学生となります。大きくなるのは早いですね。子どもがもっと大きくなり、やがて結婚を迎えるようになった時、原発の事で、相手の方々（両親など）に反対されたりとか、そういう問題が起きないか、と心配になる事はあります。
情報 正しい情報を広く発信してほしいなど 16 件	東京電力福島第一原子力発電所での汚染水をめぐっての一連の取り組み、モニタリングポストの測定値は、地元の新聞では毎日取り上げられています。一歩県外に出れば、ほぼ知ることのない情報ばかり。ここにも、ギャップを感じます。
	街の復興が進み、きれいになっても、子供たちの体への影響がわかるのはこれからのことだと思う。国民に不安を与えないように情報をかくしたり、非公表にするのではなく、正しい情報を流してほしい。甲状腺検査のことなど、県外に住む私たちには全くニュースとして入ってこないし、実態が分からないと思う。誰かが継続して調査していくことはこれからも意義があることだと思います。
避難を続けている 9 件	相変わらずの行ったり来たり生活です。9 年目になりました。（中略）避難は継続するけれど、自分のためにも生活を見直す時期なのかもしれません。だんだん風化してしまうのかもしれませんが、震災や事故があったということは覚えていたい／覚えていてほしいと思います。
	福島を離れて 10 年。父や母、祖父祖母に孫（ひ孫）の成長を近くで見せられなかったことは、やっぱり心苦しく感じることがあります。でも離れなかったら出会うことのなかった人たちに本当に助けられてここまでこれたと思います。本当に温かい人たちばかりです。今は、原発事故があったから今の私たちがある、すてきな人たちにたくさん出会えたと思えます。10 年前「あなたが後悔するなら行きなさい（避難）しなさい」と背中を押してくれた母にあらためて、「ありがとう」と伝えたいと思います。
食品の安全性 8 件	震災後 10 年になるが、県内産の食材は安全なのか、いまだに気になる。生産者の方や、PR している人たちもいるので、あまり大きな声では言いにくい。
甲状腺検査など 7 件	このまま原発事故に由来する病気などにはならずに大人になってくれると思っています。将来何かの役にたつかもと考え、ガラスバッジの測定と甲状腺の検査は続けています。
除染 6 件	最近、近所の公園で埋めていた汚染土の取り出しがはじまった。工事がはじまるまで、すっかり忘れていた。子供は、公園の工事と思っているようで、汚染土のことも分かっていないようだ。

おわりに

今回の調査結果は、以下のようにまとめられます。

- まず、**昨年より回答者が 50 名ほど減少**し、678 名の子どもの母親（保護者）からご回答をいただきました。
- **コロナ禍の生活は原発事故後の生活と重なる**と答えた人が 8 割以上で、**行動制限、不安、差別、情報、温度差などに関する声が多く**寄せられました。
- お子さんの**適応と精神的健康**については、**女子は全国調査と比較して「正常」の割合が高い状態が続いていましたが、男子は今回初めて「正常」の割合が全国平均を上回りました**。
- お子さんの**健康状態は良好**ですが、多い症状は**「皮膚のかゆみ」「腹痛・胃痛」「疲れやすい」「頭痛」「鼻血」の順**でした。これらの結果は全国に比べると有訴率が高いようです。
- **お母さんの心の状態はおおむね安定**しています。ただ、心の健康状態を調べる指標（K6）の今回の調査では**症状が「まったくない」と回答した割合が 6 つの項目のうち 4 つにおいて減少しており、コロナ禍が影響していることも**考えられます。
- **お母さんの健康状態も良好**ですが、**「肩こり」「頭痛」「腰痛」が一貫して多い**ようです。
- **「補償の不公平感」の高止まり傾向が続き、「放射能情報に関する不安」「いじめや差別への不安」「健康影響への不安」などが緩やかに減少**しています。**地元産食材や洗濯物外干しへの抵抗感、周囲の人との認識のずれも一定の割合**で推移しています。
- **子どもの将来の心身の健康に対する放射能の影響度が大きく減少**しています。
- **約 3 割の方が「原発事故・放射能を話題にしにくい」といい、9 割近くの方が「原発事故の風化」**を感じています。
- **「地域への愛着」や「現在の地域での居住意思」**については、**9 割近くの方が肯定的**です。

今回は、コロナ禍により、原発事故後の生活を思い出すとともに、「今は原発よりコロナが大変」という声に代表されます。お子さんとお母さんの健康状態もおおむね良好で、お母さんの心の状態も安定してきています。しかし、母子ともに現在は健康であるが、将来の子どもの生活や健康に影響があるのではないかという不安は完全に消えてはいません。また、補償不公平感や情報不安などの課題も残されています。その上に、コロナ禍が押し寄せ、新たな対応を迫られています。福島子ども健康プロジェクトは、福島県中通り 9 市町村の親子の生活と健康に関するこれまでの記録をふり返り、その意味を広く社会に伝えていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

福島子ども健康プロジェクト

福島
子ども健康
プロジェクト